

【特集】身近な大自然 東京都島嶼部

メッセージ 島を舞台に、大人こそ本気で遊ぼう
座談会 CIVIL ENGINEERINGの子育て
哀川翔

Glocal KANTO

グローバル関東

Vol.12
February
2019

CONTENTS

- | | | |
|----|---------------|--------------------------------|
| 02 | MESSAGE | インタビュー
島を舞台に、大人こそ本気で遊ぼう 哀川翔 |
| 04 | 特集1 | 東京都島嶼部の基礎データ比較 |
| 06 | 特集2 | 島しょ部の交通と物流 |
| 08 | 特集3 | 心、動く島。小笠原 |
| 12 | 特集4 | 八丈島の地熱利用 |
| 15 | トピックス1 | 八丈島のジャージープリン
「八丈島ジャージーカフェ」 |
| 16 | 特集5 | 伊豆諸島間ヘリ・コムーター
「東京愛らんどシャトル」 |
| 20 | トピックス2 | 御蔵島「イルカと森と消えた集落」 |
| 22 | 座談会 | Civilエンジニアの子育て |
| 30 | 坂東の原風景 | |
| 32 | ニュースの裏側 | |
| 36 | 技術人に聞く | |
| 38 | 土木ツアーNavi連動企画 | |
| 42 | 関東支部50年のあゆみ | |

身近な大自然

特集

Special Features

東京都島嶼部

東京を起点に南方へ約2,000kmに亘る広大な海域に、日本最東端の南鳥島や日本最南端の沖ノ鳥島を含む大小219島が点在しており、このうち一般の人が生活している伊豆諸島の大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島と小笠原諸島の父島、母島の計11島を総称して東京都島嶼部と呼ばれている。

これらの島々は、青い海、真っ白い砂浜、切り立った崖、緑豊かな山と息を呑む大自然、豊かな文化にあふれ、訪れる人を魅了し続けている。東京だけでなく日本の財産でもある東京都島嶼部をインフラを切り口に紹介したい。

島を舞台に、大人こそ本気で遊ぼう

哀川 翔（俳優）

■ 八丈島との縁

俺は親父が海上自衛隊の自衛官だったから、幼いころは、徳島、岩国、宇都宮、館山と転勤に次ぐ転勤。親父が亡くなったから、高校生までお袋の実家がある鹿児島で育った。その頃は、家から海まで電車で二駅（約7km）の距離で、中学時代はチャリンコ、高校時代はバイクで海によく遊びに行っていた。そんな環境で育ったから、海や釣り、自然の中で遊ぶことは今でも好き。

八丈島には、三ヶ月前から釣りに行くようになって、釣り船の船頭やシタケ農家等地元の人達と親しくなった。その縁で、平成二九年七月に「自然とマナー。八丈島大使」に就任した。

八丈島は、東京から飛行機で一時間弱と手軽に行けるのが魅力、少しの休みで遊びに行ける。海が好き、潜るのが好き、釣りが好き、という人なら八丈島に行かないのはもったいない。

■ 島自慢の美味

島には、本州にはない旨いものが沢山ある。メダイなど地物の魚を漬^づけにして、芥子が塗ってある「島寿司」。あれはめちゃくちゃ旨い。俺八丈島で一番旨いと思っ

ててほしいな。

お土産では、やっぱりくさやが有名だね。それじゃ当たり前すぎるから、変わり種を二つ紹介しようか。一つは「くさやのふりかけ」、そんなに臭わないから、苦手な人でもご飯にかけて美味しく食べられる。もう一つは「くさやのチーズ」。これがめちゃくちゃ旨い。癖のあるモノ同士を併せる発想が絶妙だよ。

■ 八丈島を遊び倒す

八丈島の釣りでは、アカハタ^ししか狙わない。大きいのは体長五〇cm位だったかな。高級魚のアカハタだけど、今のところ八丈島ではボウズはないよ。釣った魚は地元料理屋の「梁山泊^{りやうざんぱく}」に持ち込んで、刺身と煮付けにしてもらって地元の焼酎で一杯やる。海へ行って魚釣りして、釣果をあてに酒を飲んで寝て、翌日また海へ、最高の休日だよ。

他には、ゴルフも面白い。ショートコースだけど、海を眼下に打てる「八丈島シーサイドゴルフクラブ」がある。行ってみなよ凄^{こわ}いから。大自然相手にショートコースなのに簡単にはバーを取らせてくれない、気分はもう全英オープンだよ。

釣りもゴルフも同じで、同じことが二度は起きないのが、自然を相手に遊ぶ魅力かな。試行錯誤を繰り返す、その中で

経験を積んで、前より少し戦えるようになっていく、これが醍醐味。

■ 大人が先頭切って遊ぼう

大人が先頭切らないと子供は付いて来ない。大人が遊びに行こうぜと誘うと、結構付いてくる。高校生位になったらなかなか来なくなるけど、不思議なもので、どこかでまた思い出す。昔親父に連れて行かれたな、また釣りやってみようかなとか言い出すから、子供の頃にいろいろ経験させておいた方がいいよ。

俺は子供の遊びに乗らない、俺の遊び場に子供達を連れて行く。だから、うちの子供の夏休みの自由研究は、毎年海で釣った魚の魚拓だったな。子供のためって構える必要なんなくて、自分がやりたいこと、行きたいところに子供を連れて行って一緒に遊べばいい。楽しんでいる親の姿をみて子供は勝手に育つから。

ただ、遊びだつて続けないと、変な話、腕が鈍る。急に竹馬乗れって言われても乗れないよ？俺達はずっとキャンプや釣りをして遊んでいるから、仲間もいるし、道具も揃っている、日程さえ決まれば簡単。それが、普段全然遊んでいないと、急に八丈島だぞ、ほら遊べって言われても遊べないよ。だから、忙しいかもしれないけど、ちよつとずつでも遊



■哀川 翔×篠原信一×地元の方々 底土海岸での清掃活動で意気投合「やったぜ！」

んだほうがいいよ。継続は力なりってね。

■発見の魅力

島に遊びに行くときは、地元の方の遊びに混ぜてもらう感覚がいい。島の人達は島を愛しているから、あまり荒らされたくないという想いが根底にある。一方で観光客に来てもらいたいという想いもある。

八丈島には、手つかずの場所が沢山ある。ちよつと裏山に入るだけで、綺麗な川の水と赤腹のイモリが見つかる。これを隠したまま残しておいて、そんな隠れた魅力を発見する楽しみをアピールする。海もいわゆるマリンスポーツじゃなくて、素潜りとか釣りとか、自分で工夫できて、新たな発見に出会える遊び、そんな魅力を発信できないかな。

地元の人には、海で泳いで釣りすることとは当たり前過ぎて価値があると思えないかもしれないけど、例えば、防波堤でシマアジがむちゃくちゃ釣れる。うちの子供なんか入れ食い状態で百何十匹も釣った。あんなの地元の人には当たり前でも都会の子供なんか感動もんで一生忘れないよ。

俺の夢は、八丈島にある二〇〇人位乗れそうな長い防波堤で、大釣り大会を開催すること！もし実現して、東京からの参加者と地元の人が、あの防波堤の上にならずと並んで一緒に釣りして遊べたら、さつと最高だよ。



■お土産の小笠原諸島母島の「海底熱成ラム Mother」を手にパチリ

哀川 翔 プロフィール

一九六一年生まれ。一世風靡セピアの一員として「前略、道の上より」でレコードデビュー。

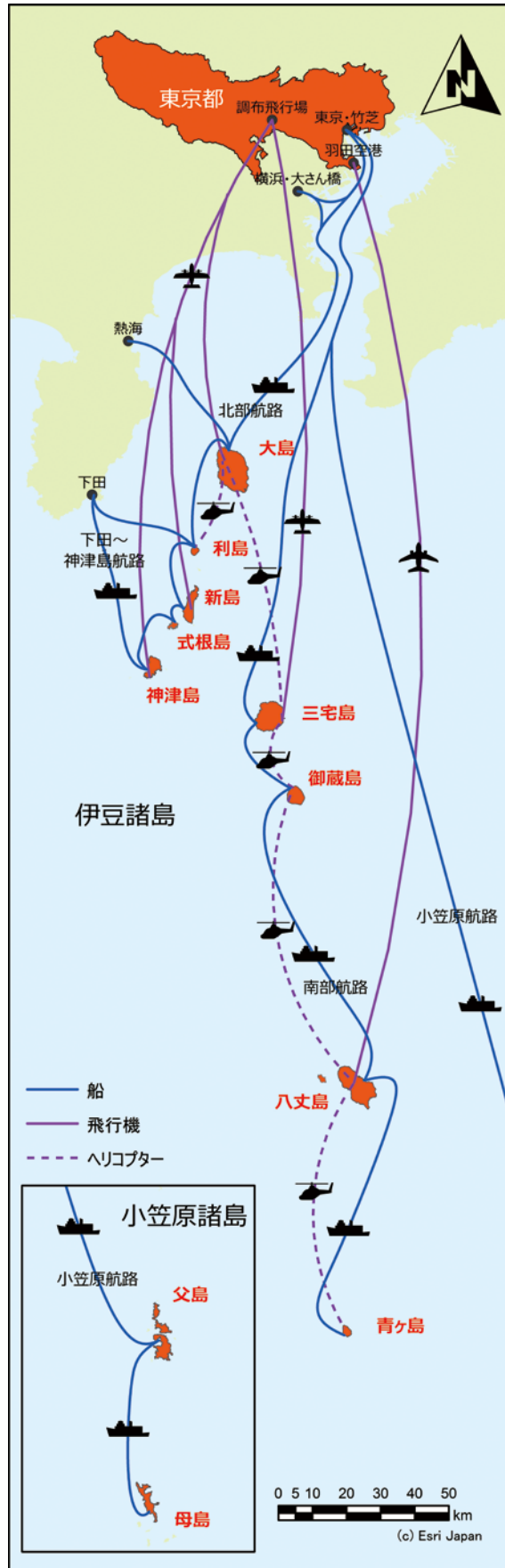
TVドラマや映画・舞台、Vシネの帝王として東映Vシネマなどで活躍し、二五〇本以上の作品に出演。

一九九九年に「第八回日本映画プロフェッショナル大賞」、二〇〇二年には「第一回DVシネマ大賞」でそれぞれ最優秀主演男優賞を、又二〇〇四年に「第一三回日本映画批評家大賞」でベストパソナリティー賞を、二〇〇五年には主演一〇〇本目の記念作品『ゼブラマン』で「日本アカデミー賞優秀主演男優賞」を受賞。

演技以外にも映画「SS」で出会った凄腕ラードライバーに感動し、二〇〇八年には自身のラリーチーム「Show Aikawa World Rally Team」を始動。同年、WRCラリージャパン初挑戦で見事完走を果たし、N三クラス一位を獲得、様々なレースに参戦。

芸能界では兄貴として慕われ、釣り、ゴルフ、キャンプをはじめ多彩な趣味を持ち、特に業界屈指の昆虫愛好家（カブトムシなど）兼実業家としても知られる。家族は妻、三男二女。

東京都島嶼部の基礎データ比較



■島嶼部の位置図

伊豆諸島		小笠原諸島	
八丈島	青ヶ島	父島	母島
八丈町	青ヶ島村	小笠原村	←
287	358	984	1,032
69.11	5.96	23.45	19.88
58.9	9.0	52.0	58.0
7,613	178	3,022	←
3,913	125	1,517	←
17.7	—	23.4	—
3,203.5	2,771.5	1,657.5	1,752.5
4.6	—	3.3	—
639	8	170	←
629	45	328	←
2,771	85	1,622	←
9	—	41	←
31	—	75	←
831	21	224	←
142,365	18,994	54,551	19,560
1,060	12	381	154
941	8	353	197
488.9	37.1	36.6	13.5
町営バス	—	村営バス	—
3	2	1	1
6	—	1	1
1	—	—	—
—	1	—	—
10	1	—	—
内燃力、地熱	内燃力	内燃力	内燃力
水道、簡易水道	簡易水道	簡易水道	簡易水道
LP ガス	LP ガス	LP ガス	LP ガス
町役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可
海底光ファイバーケーブル	マイクロ無線 ADSL	海底光ファイバーケーブル	海底光ファイバーケーブル
	—	—	—
		—	—
1,018	191	8,878	2,595
34,385	2,452	123,808	28,097
181,970 (羽田ー八丈島)	—	—	—
2,729 (御蔵島ー八丈島)	5,526 (八丈島ー青ヶ島)	—	—
110,642	4,131	29,641	10,550
81,659	1,943	20,995	4,386
46,431	32,367	124,012	44,581
「くさやチーズ」 ブド 黄八丈	青酎 (あおちゅう) クジラヨ 鳥鍋	小笠原産コーヒー豆 アオウミガメ料理 アカバのみそ汁	「Mother」 島レモン パッションフルーツ
海中散歩	二重カルデラ	ドルフィンスイム	ホエールウォッチング
八丈富士 (854)	大凸島 (423)	中央山 (319)	乳房山 (463)
		—	—
サウナ	—	—	—

人東京都島しょ振興公社／マリン・マウンテン アクティビティ、一般社団法人東京諸島観光連盟／H27年国勢調査、総務省統計局／平成28年度市町村別決算状況調、H29年3月、総務省／航空輸送統計調査、年報H29年分、国土交通省
ホームページ：過去の気象データ検索、2017年、気象庁／一般社団法人東京都LPガス協会／東海汽船（株）／神新汽船（株）／伊豆諸島開発（株）／新中央航空（株）／全日本空輸（株）／東邦航空（株）／基礎自治体、観光協会等

東京都島嶼部			伊豆諸島						
			大 島	利 島	新 島	式 根 島	神 津 島	三 宅 島	御 蔵 島
島嶼部写真									
基礎自治体	町村		大 島 町	利 島 村	新 島 村	←	神 津 島 村	三 宅 村	御 蔵 島 村
地理	東京からの距離	km	109	134	151	157	172	180	199
	島の面積	m ²	90.73	4.12	22.97	3.67	18.24	55.26	20.54
	島の周囲	km	49.8	7.7	41.6	12.2	33.3	38.3	16.4
	島の人口	(2015) 人	7,884	337	2,749	←	1,891	2,482	335
	島の世帯	(2015) 世帯	3,947	194	1,261	←	791	1,483	194
	日平均気温	(2017) ℃	16.4	—	17.5	—	16.9	17.8	—
	年間降水量	(2017) mm	3,387.0	1,928.5	2,105.0	—	1,903.5	2,597.5	—
	平均風速	(2017) m/s	4.9	—	4.8	—	5.9	5.5	—
産業	第1次産業就業者数	(2015) 人	244	42	70	←	162	100	4
	第2次産業就業者数	(2015) 人	694	43	314	←	171	282	51
	第3次産業就業者数	(2015) 人	3,043	154	1,100	←	734	1,014	162
	地価公示の平均価格（住宅地）	(2018) 千円/m ²	10	—	7	←	7	9	—
	地価公示の平均価格（商業地）	(2018) 千円/m ²	45	—	9	←	10	11	—
	土木費（目的別歳出）	(2016) 百万円	1,576	174	451	←	263	406	113
	港湾取扱貨物量	(2017) トン	227,340	81,617	77,813	—	37,693	41,968	40,012
	漁業生産量	(2014) トン	265	34	227	←	790	212	7
	漁業生産額	(2014) 百万円	250	63	260	←	999	216	9
インフラ	道路（都町村道の実延長）	(2015) km	498.9	27.7	138.1	4.6	79.1	134.6	21.4
	バス		民営バス	—	村営バス（無料）	—	村営バス	村営バス	—
	港湾	港	3	1	1	1	1	2	1
	漁港	港	5	—	2	2	1	5	—
	空港	空港	1	—	1	—	1	1	—
	ヘリポート	箇所	1	1	1	1	—	1	1
	海岸（一般・港湾・漁港）	海岸	15	2	7	1	3	6	2
	電力（発電所）		内燃力	内燃力	内燃力	新島から海底送電	内燃力	内燃力	内燃力、水力
	水道	(2017)	水道、簡易水道	簡易水道	簡易水道	新島から海底送水	簡易水道	簡易水道	簡易水道
	ガス		LP ガス	LP ガス	LP ガス	LP ガス	LP ガス	LP ガス	LP ガス
	通信（携帯電話）	(2017)	町役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可	村役場周辺等可
	通信（ブロードバンド）	(2017)	海底光ファイバーケーブル	マイクロ無線ADSL	マイクロ無線ADSL	マイクロ無線ADSL	海底光ファイバーケーブル	海底光ファイバーケーブル	海底光ファイバーケーブル
交通	船	(2018)							
	飛行機	(2018)		—		—			—
	ヘリコプター	(2018)			—	—	—		
	入港船舶隻数	(2017) 隻	4,108	1,323	1,540	1,551	4,064	380	524
	船客乗降人員	(2017) 人	452,800	15,023	56,881	—	45,630	20,278	15,382
	旅客数（飛行機）	(2017) 人	18,694 （調布－大島）	—	33,206 （調布－新島）	—	23,707 （調布－神津島）	25,450 （調布－三宅島）	—
	旅客数（ヘリコプター）	(2017) 人	—	2,360 （大島－利島）	—	—	—	2,207 （大島－三宅島）	3,900 （三宅島－御蔵島）
	来島者数	(2016) 人	229,668	8,057	48,953	24,385	41,488	44,316	10,807
観光	観光客数	(2016) 人	198,596	3,228	44,181	23,465	36,347	35,449	7,642
	1人当たり消費額	(2016) 円	18,355	21,536	28,872	29,678	19,324	18,786	14,645
	郷土料理・名産品	島焼酎、島寿司、島塩、くさや、明日葉、ラム	唐辛子醤油 オオサヤエンドウ 椿油	特大サザエ はばのり 椿油	赤イカやきそば あめりか芋 新島ガラス	赤イカやきそば いもち すり身たたき	あぶらき キンメダイ 多幸湧水	島おむすび 島あさりカレー テングサ	「御蔵の源水」 「塩ミルクジェラート」 島桑・島ソゲ
	見どころ		バームクーヘン	7 神社 1 寺	モヤイ像	連絡船「にしき」	星空観望会	火山体験遊歩道	イルカウォッチング
	海水浴場			—					—
	主な山（標高）	m	三原山（758）	宮塚山（508）	宮塚山（432）	カンピキ山（99）	天上山（572）	雄山（775）	御山（851）
	温泉			—					—

出典：＜写真提供＞東京都港湾局／伊豆小笠原諸島の港湾・漁港・空港・海岸、H28年3月、東京都港湾局／東京港港勢（島しょ港湾を含む）、H29年（2017年）、東京都／東京都の水産、H27年版、東京都産業労働局／伊豆小笠原諸島沿岸海岸保全基本計画、H29年4月、東京都／各支庁管内概況（大島、三宅、八丈、小笠原）、H29年、東京都／平成30年地価公示価格（東京都分）、H30年3月、東京都財務局／東京諸島の概要（伊豆諸島・小笠原諸島）、H29年、東京都島嶼町村会／2016離島統計年報CD-ROM版、H30年3月、公益財団法人日本離島センター／東京愛らんど市場、2018年4月号、公益財団法人

島しょ部の交通と物流

一・東京都の島しょ部が果たす役割

東京の島々は、美しい自然に恵まれ、「真珠の首飾り」にも例えられる貴重な癒しの空間であるだけでなく、海洋立国日本の要衝でもあります。

伊豆諸島は、東京から約一〇〇kmから三五〇kmの南方海上に位置し、九島の有人離島及びその他の無人島が点在しています。また、小笠原諸島は、東京から約一〇〇〇kmの南方洋上に南北に散在する三〇余の島からなります。

これら東京都の島しょ部の存在により確保されている海域は、日本全体の領海の約一一・六％、排他的経済水域の約三八％に及びます。この海域は、豊富な水産資源はもとより、レアアースや地熱発電等、新たな資源やエネルギーの開発・利用の面でも大きな可能性を有しており、国益を維持する上で非常に重要な地域です。

二・本土と島を結ぶインフラ

伊豆・小笠原諸島への交通アクセス

手段は、航路と航空路の二つです。

まずは航路ですが、伊豆・小笠原諸島は国内でも稀な厳しい気象条件にあり、東京都は長年に亘って港湾、漁港整備を行いながら生活と産業を支える航路の確保に努めてきました。

就航率を上げるための工夫として、大島・新島・神津島・三宅島・八丈島の二つの港湾を整備する一島二港方式を採用しています。この方式では、島を防波堤に見立てて、反対側の位置にもう一つの港湾を作り、海象条件により片方の港に接岸できない場合は、反対側の港に接岸することで就航率を高めています。利島、御蔵島、青ヶ島では、一港二突堤方式を採り、岸壁自体が互いに防波堤の役割を果たすように一つの港に平行して二箇所の突堤式の岸壁を整備しています。

本土から伊豆諸島への航路は主に三つあり、東京竹芝から大島・利島・新島・式根島・神津島を結ぶ北部航路、東京竹芝から三宅島・御蔵島・八丈島を結ぶ南部航路、伊豆下田から利島・新島・式根島・神津島を結ぶ下田・神

津島航路があります。

北部航路を走る船が「さるびあ丸」です。旅客定員八一人の大型客船で、竹芝から大島（最短所要時間：六時間）、利島（七時間三十分）、新島（八時間三十分）、式根島（九時間）、神津島（九時間五十分）の順に運航しています。

北部航路には大型船だけでなく、ジェット船も就航しています。ジェット船は、水中翼の揚力により船体を海面から浮き上がらせて走るため、波の影響を受けにくく、揺れの少ない点が特徴です。また、喫水（船が航行できる水深）が浅いため、ほとんどの岸壁へ接岸でき、小回りも効くため就航率の高さが強みです。こうした特性を活かし、東日本大震災や大島豪雨災害時には来島客を短時間で本土へ輸送し活躍しました。ジェット船は、竹芝・大島間を最短一時間四十分、竹芝・利島間を二時間二五分、竹芝・新島・式根島間を二時間二〇分、竹芝・神津島間を三時間五分で運航しています。

一方、東京竹芝から八丈島までの南部航路で運航されているのが大型客船



■ジェット船：セブンアイランド愛（東海汽船株式会社提供）



■大型客船：橋丸（東海汽船株式会社提供）

の「橋丸」です。この航路は、太平洋上に孤立して点在している三宅島・御蔵島及び八丈島と本土を結ぶ唯一の海上路として長い歴史的経緯を持つと共に、島民にとっては本土との連絡の足としてなくてはならない存在となっています。

います。現在就航している橋丸の船体は三代目で、平成二六年に就航しました。竹芝から三宅島（最短所要時間…六時間三〇分）、御蔵島（七時間二五分）、八丈島（十時間二〇分）の順に運航しています。

この他には、下田から利島・新島・式根島・神津島を結ぶ航路があります。この航路は本土と四島を繋ぐ最短航路として、下田市及び周辺地域との人的交流、商用、医療機関の利用等の旅客輸送はもとより、島で生産される農水産物の出荷及び生活物資、工事関連資材の輸送等の物流を含め、島民にとって必要不可欠な生活航路となっています。この航路を走っているのが「フェリーあぜりあ」で、カーフェリーのため車の航送も可能です。

小笠原諸島への交通アクセスは現状航路のみとなっています。竹芝と父島間を運航しているのが「おがさわら丸」で、現在運航している船体は平成二八年に就航したばかりの新しい船です。この航路は、島民生活の移動手段や生活必需物資の移入及び地場産業である島しょ産物の輸送手段として、かつ重要な観光産業を担う交通機関として必要不可欠な航路です。竹芝・父島間の所要時間は約二四時間となっています。

本土から母島へのアクセスは、父島で「ははじま丸」に乗り継ぎ、二時間ほどで到着します。父島・母島航路は、両島を結ぶ唯一の旅客定期航路であり、旅客の往復に利用されている他、生活必需物資の輸送を担っており、母島島民の生活を維持するために必要不可欠な航路となっています。

航空路は、調布飛行場から大島・新島・神津島・三宅島空港に小型機（ドルニ工機）が運航しています。また、八丈島空港には、羽田空港から定員約一七〇名のジェット機が運航しており、所要時間は通常五十五分です。

三．東京都の施策

東京都では、航路に対しては南部航路と下田・神津島航路及び父島・母島航路に補助金を支出し、航路の維持改善を図っています。航空路に関しては、島民の利便性向上を図るため、平成二九年度より三宅島・八丈島を結ぶ航空路（南部航空路）に島民運賃割引



■八丈島神湊港に接岸中の橋丸

東京都港湾局離島港湾部

東京都港湾局離島港湾部は、東京都の島しょの港湾、漁港、空港及び海岸に関する事務事業を所管しています。

伊豆諸島は、東京から約100～600km南方洋上に散在する大島、三宅島、八丈島などからなり、総面積約300k㎡、22,744人の住民が生活されています。

また、小笠原諸島は、東京から約1,000～1,700km南方洋上に散在する父島、母島などの島からなり、終戦後は米軍の管轄下にありましたが、昭和43年6月に我が国に返還され、現在は総面積約104k㎡、2,610人の住民が生活されています。

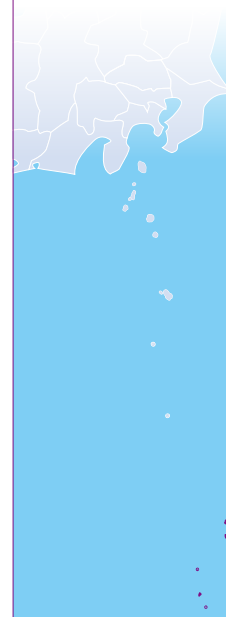
これらの島の港湾、漁港、空港及び海岸の整備は、交通輸送の確保、産業基盤づくりという点で島民の生活に欠くことができないことから、厳しい自然条件を克服しながら、着実に事業を進めています。

※住民数：平成30年4月1日現在住民基本台帳人口より

を導入し、翌三〇年度には対象を大島・新島・神津島を結ぶ航空路（北部航空路）にも拡大しました。今後も港湾・漁港・空港及び海岸保全施設の整備等に取り組むと共に、航路・航空路事業者と協力しながら島民生活の安定と向上・産業の活性化を図ってまいります。併せて、「島は不便」との先入観を取り除き、観光客の利便性と来島インセンティブを高める方策について、関係機関と協力して新たな対策を講じていきたいと考えています。

心、動く島。小笠原

根岸 康弘（一般社団法人東京諸島観光連盟
小笠原村観光局 事務局長）



■父島二見港とおがさわら丸
二見港は父島の玄関口。おがさわら丸は本土と小笠原諸島（父島）を結ぶ唯一の交通手段。定期便は概ね週に一往復、航海時間は片道約24時間。

小笠原諸島は、東京から南に約一〇〇〇キロの太平洋上にある大小三〇余の島々から構成されています。その範囲は広大で、日本が有する排他的経済水域（EEZ）のおよそ三割は小笠原諸島の島々で確保されています。また、日本最東端の南鳥島と、最南端の沖ノ鳥島は小笠原諸島に属しており、国境離島としても大変重要な役割を担っています。国境離島というと近づく難いイメージを持たれる方がいらつしやるかもしれませんが、その役割とは裏腹に、「父島」「母島」「兄島」「妹島」など、家族名が付けられた島も数多く親しみやすい一面もあります。また、「婿（むこ）島」と「嫁島」の間には「媒（なこうど）島」が鎮座するなど、島影を眺めているだけでも、先人の遊び心に触れることが出来るのが小笠原諸島の特徴です。

小笠原諸島は亜熱帯に属しているため、特に夏の暑さが厳しいイメージを持たれている方が多いのですが、実際には、夏の平均最高気温は三〇・五度と、東京二三区よりも過ごしやすいくらいです。更に、亜熱帯であり、本土



■南鳥 扇池
「沈水カルスト地形」という特殊な地形が創り出す幻想的な風景は新東京百景の一つ。

からも遠く離れていることから、杉や檜の花粉に悩まされることもありません。

このように、過ごしやすい環境に恵まれた小笠原諸島ですが、有人島としての歴史はそれほど古くありません。

小笠原諸島に初めて人が定住したのは太平洋での捕鯨が盛んになった一九世



■ペリー来航記念碑
1853年、アメリカ合衆国東インド艦隊司令官ペリー提督が父島二見港に寄港。

紀のことです。当時、捕鯨船の中継基地として開発が進んだハワイ諸島などと同様に、捕鯨船との交易を生業にすることを目的とした二〇数名の欧米人と太平洋諸島民が江戸時代後期の一八三〇年（文政一三年）にハワイから父島に入植したのが定住の始まりです。しかし、最初の定住者が日本人で



■ザトウクジラのブリーチング
体長10m以上、20～30トンもある巨体が突然音もなく海面から飛び出して宙を舞う姿は圧巻。



■アオウミガメの産卵
小笠原諸島は日本最大のアオウミガメの繁殖地。



■ドルフィンスイム
一年を通じて出会うことのできるイルカは観光客だけでなく島民にとってもアイドル的存在。

はなかったことをご存知の方はあまり
いらっしやいせん。更に、「黒船来
航」で有名なマシュー・ペリー提督が
日本に開国を迫るため浦賀に入港した
ことは多くの学校で学びますが、それ
以前に父島に寄港し、米国領有を宣言
すると共に、自身が所有する捕鯨船用
に石炭貯蔵用地を購入していた事実を
紹介する教科書は殆ど存在しません。
そして、第二次世界大戦の激戦地とし
て有名な「硫黄島」が小笠原諸島に属
していることをご存知の方も多くはあ
りません。上陸戦こそなかったもの
の、司令部が置かれた父島や母島も空
襲などの攻撃を受け、一九四四年（昭
和一九年）には、小笠原諸島の全島民
が本土へ強制疎開となりました。その
後、終戦と同時に米軍占領下に置かれ
た小笠原諸島は、一九六八年（昭和
四三年）の日本復帰（返還）までの間、
欧米系と呼ばれる一部島民を除き、一
切の島民が許されなかったという悲し
い歴史も併せ持っています。

このようにユニーク且つ知られてい
ない歴史を数多く有する小笠原諸島で
すが、二〇一一年に国内で四番目のユ
ネスコ世界自然遺産に登録されたこと
で、「自然」が脚光を浴びることとな
りました。小笠原諸島の自然といえ
ば、多くのダイバーを魅了してきた多
種多様な魚たちや、愛嬌たっぷりで癒
しを提供してくれるイルカ、圧倒的な
存在感を誇るクジラや、生命の尊さを
教えてくれるウミガメなど、「海」の
自然をイメージされる方が多いのです
が、ユネスコが世界遺産級の自然と評
価したのは海域ではなく陸域の生態系
でした。島が誕生して以来、他の陸地



■オガサワラオカモノアラガイ
殻が小さく退化してナメクジ状になり、半透明のゼリーのような姿をしている。進化の過程を示す見本的存在。



■ヒメカタマイマイ
カタツムリ王国とも言うべき小笠原にあって、固有陸産貝類を代表する存在。



■父島の星空
日本国内で星空が1番綺麗に見える場所に2年連続で選出。南十字星やカノープスも観望できる。

と陸続きになったことがない絶海の孤島では、奇跡的に辿り着いた生物が隔絶された環境に適応していく過程で、地球上で唯一無二な存在である「固有種」へと進化します。小笠原諸島の場合、特異稀な生態系の代表的な存在として陸産貝類（「カタツムリ」）が挙げられますが、その固有種率は実に九四%にも上ります。元々は同じ姿かたちをしていたものが、夫々の生活環境に適応していく中で、全く異なるものに進化した姿を身近に観察できるのは小笠原観光の醍醐味の一つです。

しかし、小笠原観光の醍醐味はそれだけではありません。世の中には「1



■父島湾岸通り
南国情緒たっぷりの父島のメインストリートには飲食店や土産物店が立ち並ぶ。

番」という響きに魅力を感じられる方も少なくありませんが、小笠原諸島はまさに「1番」が非常に多いところでもあるのです。前述の南鳥島や沖ノ鳥島は日本の1番東と1番南の島ですが、それ以外にも、日本で1番早い初日の出や、日本で1番早く元旦に海開きが行われます。更に、国内で最初にホエールウォッチングが行われたのも小笠原諸島です。また、日本国内で星空が1番綺麗に見える場所に2年連続で選ばれています。

このように魅力満載の小笠原諸島には、一九六八年（昭和四三年）の日本返還直後より全国各地から多くの方々が移り住んできました。その結果、現在では全島民の八〇九割が移住者という人口構造になっています。移住者は島に移り住んできた時期に応じて、「新

島民」「新新島民」などと呼ばれ、強制疎開前から住んでいる「旧島民」と共に小笠原特有の文化を育んでいます。

かく言う私も移住者の一人です。学生時代に旅行で訪れた海外で、それも外国人旅行者から小笠原諸島の魅力を教えていただいたのがきっかけで二〇〇〇年（平成十二年）に初訪島しました。初めて降り立った父島は日本ぽくないけれど海外でもない、なんとも表現がし難い不思議なところでした。そして、その後の滞在で味わったカルチャーショックは、今まで巡ってきた海外のどの場所よりも大きく、強烈な印象として二〇年近く経った今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。その後、縁があり二〇〇五年（平成一七年）に念願の小笠原移住を果たしたわ



■都道最南端
北緯26度37分、東経142度11分。東京都が管理する都道241号線の最南端。



■東京都最南端のバス停
小笠原村営バスの停留所「小港海岸」。父島南部にある絶景スポット「ジョンビーチ」への遊歩道はここが起点。



■母島東港付近戦跡
第二次世界大戦中に日本軍が築いた大砲や防空壕が亜熱帯の森の中にひっそりと眠っている。

けですが、実際に生活してみると、更に数多くのカルチャーショックを受けることとなりました。まずは曜日感覚が違うこと。概ね週に一遍の定期船しか本土との交通手段がない小笠原では、定期船の入港日が週初め、定期船が出港すると週末の始まりという感じ。繁忙期を除き、定期船は島に四日間の停泊なので、感覚的には四勤三休という感じです。本土に比べ一日得した気分を味わえるのです。また、昼休みも独特です。島内の多くの組織が一時間半の昼休憩を採用しているのですが、多くの家族が親も子供も一旦帰宅して家族と一緒に昼飯を食べます。天気がよく、クジラやイルカの目撃情報が入れば、船を出してウォッチングを楽しみながらの弁当昼食に早変わりなんてこともしばしば。食後にひと泳ぎしてからそれぞれ午後の仕事や学校に戻っていくというのが小笠原の日常生活です。

そんな島生活に慣れて、また、そんな環境での子育てを希望されて全国各地から人が集まってきました。ワンルームでも六万円以上する家賃は決して安くはありませんが、それでも新たな生活や人生を求めて移住されてくる方が後を絶ちません。その一方で、島を引き上げる方が一定数いるのも事実です。国境離島である小笠原諸島は他の島嶼地域に比べて公務員人口の比率が高いのですが、国や東京都、警察や自衛隊などの公務員家族は赴任期間が終了すると島を離れることになるのです。このような理由もあり、小笠原島民の人口は二六〇〇人程度、平均年齢は四〇歳程度と若いのです。過疎化、高

齢化に苦しむ全国の島嶼地域からすると信じ難い状況が小笠原の常識だったります。

私は仕事の都合上、観光客の方々と接する機会が多いのですが、何度か島を訪れているリピーターのみなさんには共通していることがあります。それは訪島目的の変化です。初訪島のきっかけはイルカやクジラ、トレッキングなど、自然を目的にされた方が圧倒的に多いのですが、訪島回数を重ねるほど、島民との再会を一番の目的に挙げられる方が多くなります。日頃、企業戦士としてコンクリートジャングルで戦う方々にとって、数年前まで同じような環境で戦っていた人が、島で正反對の生活を始め、それまでとは大きく異なる幸福感を持って人生を謳歌している姿を見たり話を聞いたりすることはリフレッシュすると同時に、英気を養うのに格好の機会になっているようです。そしてもう一つ、小笠原旅行の特徴として挙げられるのが女性の一人旅が多いことです。一昔前までは、一人で旅行されている女性を見掛けると心配したり敬遠されたりすることが多かったようですが、小笠原諸島では数多くの女性が一人旅を楽しんでいます。そして、船内で二四時間、現地で三泊四日を共にする他の観光客の方々と旅の途中で意気投合し、復路の船内では一〇名を超える方々と車座になって宴会を楽しまれている姿をよくお見掛けします。

さて、前述にあるように特異な歴史的背景から多様な文化を育んできた小笠原諸島は、本年、日本復帰（返還）から五〇周年を迎えました。五〇周年

という大きな節目を迎えた小笠原村では「夢受け継いで五〇年、未来へ羽ばたけ小笠原」というスローガンを掲げ、歴史と伝統を振り返ると同時に、郷土への誇りと愛着が高まるような島の魅力を再認識して次世代に受け継ぐための各種活動、行事を島内外で行っています。

根岸 康弘 プロフィール (ねぎし やすひろ)

一般社団法人 東京諸島観光連盟
小笠原村観光局 事務局長

東京都世田谷区出身。2000年に観光で訪れた小笠原の魅力に魅せられ2005年に移住。それ以来、一貫して小笠原の観光振興に従事。母島、父島の観光協会での経験を生かして、現在は本土側に設立した小笠原村観光局にてセミナー活動、メディア対応、イベント実施など、小笠原観光の活性化を目的としたセールス・PR活動に従事している。



八丈島の地熱利用

広報委員 日比 理智



■写真1 八丈島（左：八丈小島、右：八丈富士）



■図1 八丈島

■八丈島における地熱発電の
取り組み ～八丈町取材～

一・八丈島の概要

八丈島は、東京の南方二八七kmに位置し、人口約七五〇〇人、平均気温一七・八℃、面積六九・一一km²の島です。八丈富士と三原山の二つの火山体からなっています。主な産業は、花卉園芸などの農業、漁業、ダイビングなどの観光業が発達しています（図1、写真1）。

二・地熱発電の経緯

八丈島の地熱発電は、平成元年にNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の調査が全島において行われ、本島の南方に位置する中之郷で、地熱資源が有望視されたことがきっかけとなりました。それに伴い、八丈町は通商産業省（現・



■写真2 八丈島地熱発電所

経済産業省）へ地熱開発の働きかけを行い、並行して温泉開発や排熱利用型農業温室の整備などを行いました。八丈島地熱発電所は、平成一一年三月に定格出力三三〇〇kWの施設として東京電力により運転開始されました。全国初の離島における地熱発電所となりました（写真2）。



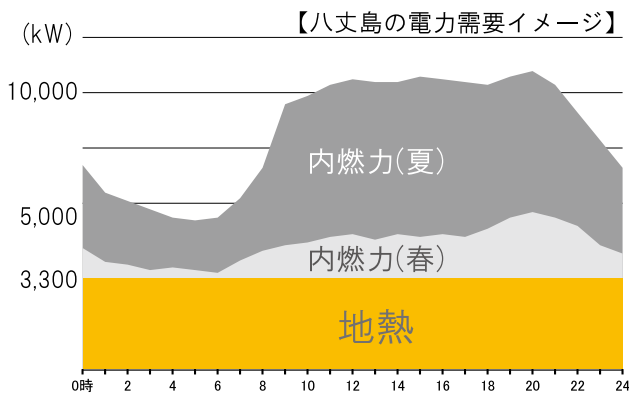
三、八丈島の電力供給

八丈島は、本州や近隣の島と送電線がつながっているわけではなく、島で使われている電気は全て島内で発電されています。

島の電力は、約二五%が地熱発電となっており、ベース電源として発電を行っています。そのほかは内燃力発電所（ディーゼル発電、総出力一一〇〇kW）で賄われています（図2）。

四、地熱発電拡大に向けての課題と方針

（1）地熱利用の拡大に向けて
八丈町の基本構想には、「歴史と文化



■図2 八丈島の電力消費

を生かす町」、「クリーンアイランドを目指す町」、「海洋を活かす町」、「住民が主役の町」の四つの柱を掲げており、自然環境との調和を基本方針としています。

平成二五年一月に八丈島の地熱利用拡大について、検討が始められました。検討開始時には、島の電力の多くを地熱でまかなうことが期待されていました。また、運転中の地熱発電所が



臭気への懸念



誤情報氾濫
関心度の地域差



地域振興への波及

■図3 地域に密着した課題

更新時期を迎えつつあったことも地熱利用拡大の検討の契機となっていました。

地熱利用の拡大により、地域の魅力向上やエネルギーの自給自足・防災力の向上の全国的モデル地域の創出、また、発電事業による既存産業への波及や観光資源への寄与、地域振興への波及が期待されました。

（2）地熱発電拡大に向けた課題と方針

地熱発電拡大に向けた専門的知見からの検討を行うため、地域住民、地域金融、有識者、東京電力や行政で、検討組織を立ち上げました。

検討課題として、①事業の実現可能性、②電力安定供給、③事業主体の検討、④地域への利益の四つを設定しました。

また、地域に密着した課題を検討するため、地域の商工団体や地域企業、地域NPO、大学、コンサルタントを含めた組織を立ち上げました。

地域に密着した課題と取り組みとして大きく三つを選定しました（図3）。

一つ目は、臭気への懸念。硫化水素を主とする温泉地で感じられる様な臭いが発生することについて住民の心配がありました。既存の地熱発電所近くでは、気象条件により民家で臭いが感じられることがあり、発電量が三倍になると臭いも三倍になるのではないかと誤解する人もいました。臭気の計測値と人の感覚をすり合わせる必要が必要になりました。

二つ目は、誤情報の氾濫や地熱発電所が立地している地域とそうでない地

域で関心度の地域差がありました。勉強会やシンポジウムなどを開催し、地熱発電に対する正しい情報を伝える努力を行いました。

三つ目は、地域振興への波及として、農業や温泉利用など熱水利用型モデル事業が行えないかと検討しました。

専門家による検討と、地域課題により、①余剰電力の調整として揚水発電での対応を想定していたものの周波数調整が困難、②臭気への対応、③地熱発電した電気を一度、内燃力発電所に送ってから配電していることから、内燃力への送電線容量不足などの技術的な課題が見えてきました。それらの課題について、①揚水発電に代わる対応として蓄電池を採用、②臭気を低減する発電方式の採用、③内燃力への送電線容量を増強することにより、地熱発電の拡大が技術的には可能であることが分かりました。

五、条例とガイドラインの整備

地熱発電をはじめとした再生可能エネルギーは、事業継続・資源維持の観点から電気が安定的に供給されること、再生可能エネルギーが地域と地域住民のために利用されることが重要と考えました。

こうした要求事項を満たすため、事業者を決めるよりも前に、ルールの整備が必要という考えに至り、「八丈町地域再生可能エネルギー基本条例」「八丈町再生可能エネルギー事業に関するガイドライン」の整備を行いました。

条例には、地域の再生可能エネル

ギーは地域固有の資源であり、地域の経済性に配慮すること、再生可能エネルギーの価値を見出すため、町・市民・事業者は相互に協力することを明記しました。

ガイドラインは、主に事業者向けの内容となっており、①住民や利害関係者への事前説明を行うこと、②建設などの基準や事業者の責務として、生活環境・自然環境・景観への影響を予見し、必要に応じ事後調査や対策を行うこと、③地域の利益を優先し、工事等の地域発注・地域雇用・社会的経済的利益分配等の努力を行うことを義務づけています。

六、新事業の事業主体

(1) 新事業者募集に向けて

前述の地熱発電拡大に向けた専門的知見からの検討において、現地地熱発電所の事業者である東京電力株式会社（現・東京電力パワーグリッド株式会社）から、現施設を長期間現状維持するのは物理的に困難であり、現施設を維持しつつ、新事業が立ち上がるならバトンタッチには協力するというコメントが得られました。

電力系統が独立している環境下における事業性確保の観点から、国の制度である再生可能エネルギー固定価格買取制度の利用を前提に、東京電力株式会社以外の事業者を募集することになりました。

(2) 事業者公募の考え方

事業者公募に当たり、大きく四つの公募要項を設けました。

始めに、最も重要な事項は、電力の安定供給であり、地熱発電した電気を内燃力発電所に送ってから配電していることから、内燃力発電所の管理者である東京電力株式会社との協力体制構築が必要です。また、地熱発電を大幅に拡大する場合、内燃力発電所に送電するための経費が多額となるおそれがあったことなどから、段階的に規模拡大を図る必要がありました。

二つ目は、臭気対策などの地域の課題を解決するため、地域住民協力の調査結果を反映し、排出基準値の設定、モニタリングの規定を行いました。

三つめは、地域の財産である再生可能エネルギーによる利益を適切に地域にもたらす、地域貢献の提案を求めました。

最後に、条例の理念やガイドラインに則した事業実現が行われる様に、町と事業者が協定を締結することとしました。

事業者公募の審査基準は、事業計画・臭気対策・地域貢献の三つを同じレベルの評価で実施しました。

(3) 事業者の選定

公募による審査が行われ二次審査まで六社が選定され、最終的にオリックス株式会社を選定されました（図4）。選定に当たり、地熱発電事業を地域とともに発展させていくため、町と協議のうえ地域の意見を広く吸収し、反映させていく仕組みを構築することを条件として設定しました。

七、事業スケジュールの概要

現在は、地表調査・物理探査・総合解析を実施しているところです。二〇二二年度の運転開始に向けたスケジュールで事業を進めています（図5）。

並行して、事業進捗の情報共有や事業に関する意見交換の場として、住民説明会、地域や関係団体との連絡会を実施していくこととしています。

ー計画概要ー

【定格出力】4,444kW
【発電方式】シングルフラッシュ
【運転開始時期】平成34年度

■図4 新地熱事業概要



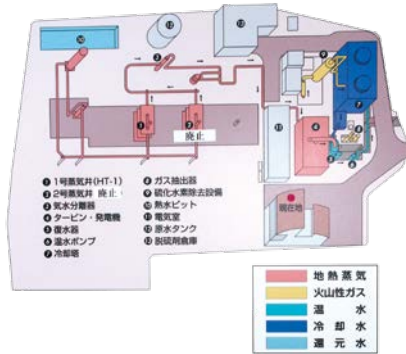
■図5 事業スケジュール概要



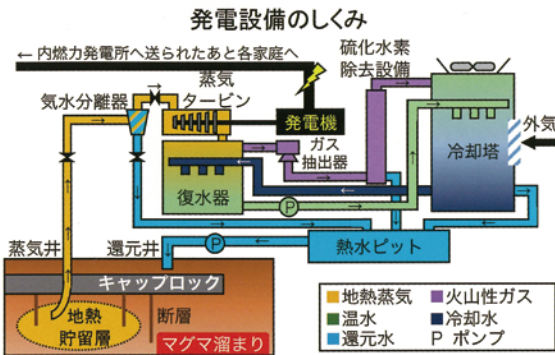
■写真3 八丈島地熱発電所

■八丈島地熱発電所

八丈島地熱発電所は、八丈島の南の中之郷にある発電施設です。地熱発電は、半永久的なエネルギーといわれていて、太陽光や風力と同じでCO₂をほとんど排出しないエコエネルギーです。八丈島地熱発電所の発電方式は、地



■図6 発電所配置図



■図7 発電設備のしくみ

■八丈島地熱発電所設備概要

- ・蒸気井 : 本数1本 深度1,650m
- ・還元井 : 本数1本 深度100m
- ・気水分離機 : 遠心分離式 32トン/時
- ・蒸気タービン : 単気筒単流排気式復水器
出力 : 3,300kW
回転数 : 7,266rpm
- ・発電機 : 横軸回転界磁型
出力 : 3,660kVA
回転数 : 1,500rpm
- ・復水器 : 直接接触式ジェットスプレー型
- ・温水ポンプ : 1,300トン/時(揚程23m)
- ・冷却塔 : 湿式機械通風式コンクリート製
- ・硫化水素除去設備 : 水酸化マグネシウム吸収法
- ・付帯設備 : 原水タンク 1基
脱硫剤倉庫 1棟

熱貯留層と呼ばれる地下断層に溜まった熱水を深さ一六五〇mの蒸気井から取り出し、噴出した蒸気と熱水を気水分離器で分離し、蒸気でタービン・発電機を駆動して発電します。熱水は熱水ピットをへて還元井により地中に還元します(写真3、図6、図7)。

トピックス

広報委員 上田 透

八丈島のジャージープリン 『八丈島ジャージーカフェ』

皆さんはジャージー牛乳のプリンを食べたことはあるだろうか？一般的に市販で売られているプリンのほとんどがホルスタイン牛のプリンであるが、数少ないジャージー牛のプリンを食べることができその一つが八丈島ジャージーカフェだ。

「ジャージー牛は乳質が濃く味も優秀であるが、乳量ホルスタイン牛に比べて少ないため、プリンに使われることは少ない。丁寧に低温殺菌し味の質を高めたジャージープリンをいろんな方に食べていただきたい。」そう語るののが背が高く笑顔が印象的な歌川社長だ。新潟出身だが八丈島に魅せられ移住し、ホテルの経営を行いつつながら独自に牧場経営を行っている。放牧を基

本とした山地酪農スタイルをとり、ジャージー牛のストレスを限りなく少なくすることで、牛乳の質を高めている。

そんな歌川さんが作るジャージープリンには非常に滑らかでクリーミー。程よい甘みの中にコクがある。プリンがおいしいので、ソフトクリーム等他の商品にまで手を出したくなる。

「ホテルや酪農は八丈島の観光資源の一つ。観光資源をもっと増やして、八丈島全体を盛り上げたい。」と語る歌川さんの言葉に、まちづくりの技術者と同じインスピレーションを感じた。

海や自然だけが八丈島じゃない。そう感じたジャージープリンだった。



■ジャージープリン（右端）とその他商品



■歌川さん（中）とスタッフ



■外観がシックなジャージーカフェ

伊豆諸島間ヘリ・コミュニター 『東京愛らんどシャトル』



■シコルスキー S76C +型。洗練されたデザインと機内環境の高さから、世界各国でVIP輸送や要人の視察飛行などの用途に使用されているヘリコプターです

太平洋に浮かぶ伊豆諸島をヘリコプターで結び、島民の確かな翼として利用されるとともに、島の仕事に従事する人々の交通の便として、なくてはならない交通手段となっています。

「東京愛らんどシャトル」路線を設けるに至った基本コンセプトは、島しょ間における交通手段の確保で、伊豆諸島の中でも本土側と飛行機の定期便が就航し、大離島と呼ばれる大島、三宅島、八丈島と、その大離島と隣接した小離島と呼ばれる利島、御蔵島、青ヶ島間を結ぶ生活路線として設定されています。

運航の主な基地は八丈島で、八丈島空港内に格納庫を設け、南の青ヶ島から北の大島までを一日一往復で結んでいます。

平成五年八月の運航開始当初は、週六日の運航で開始しました。しかし、運航が定着するにつれ、島民の方々の強い要望により、平成八年九月からは一年三六五日の運航とし、さらに、平成一〇年三月からは島民の心を繋ぐ郵便物輸送も開始しました。平成一二年九月から、三宅島噴火に伴う全島民

避難より同島への就航を見合せていましたが、平成一七年二月の避難解除に伴い、三宅島空港に代わる新たな飛行場外離着陸場（ヘリポート）を、火山ガスの影響を受けにくい島の北部に設置し、同年一〇月から運航を再開しました。平成一九年一月には搭乗者数二〇万人、平成二四年一月には搭乗者数三〇万人を達成するとともに、現在まで二五年間、無事故運航が続いています。

東京都は伊豆大島から最南端の沖ノ島島をはじめ、最東端に位置している南鳥島も含み、日本で最も海が広い自治体です。

伊豆諸島の交通体系として、空路は羽田空港から全日空が八丈島へ、また、調布飛行場から新中央航空が大島、三宅島、新島、神津島へと就航しています。海路については、大島航路として東京港より大島、利島、新島、式根島、神津島へ、八丈島航路としては東京港より、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島へと結ばれており、大島、新島、神津島からは熱海、伊東、

稲取、下田への海路もあります。以上のような交通体系の為、例えば御蔵島または三宅島から大島へ行く場合、一度東京へ出なければ渡る事の出来ない不便な交通体系となっていました。

また、各小離島ではその立地条件から飛行場を作ることができず、また港の整備も厳しい状況にあり、台風シーズンや、西風の強い冬場においては、船便の就航率が五〇%以下になることも多く、四〜五日間船便が欠航となり、島外との連絡はもとより生活物資の運搬にも支障をきたす事もありました。

このようなことから東京都では、伊豆諸島での生活基盤の充実、地域活性化、産業振興を考え、離島間交通ネットワーク整備（全国交通一日圏）を重点課題と位置づけ、対応策を検討しました。その結果、目的地への所要時間が掛かり時季によっては欠航も多い船便から、より安定した「島民の翼」として、ヘリコプターによる「伊豆諸島間ヘリ・コミュニター」を試験的に運航し、就航率、搭乗率など、事業化へ



■ヘリコプターまで歩いて搭乗します



■操縦席の様子



■東京愛らんどシャトル就航 20 周年記念式典（平成 25 年 8 月）

向けた調査を日本航空協会に委託しました。試験運航は「愛らんど」エア・リンクと銘打ち、平成元年から四年間にわたり、計一六回、延べ三〇二日間にわたって実施されました。

この結果、船便の就航率が落ち込む冬場（一月～三月）において、ヘリコプターの就航率は高く、充分に、島の翼となる事が分かりました。ただし、「梅雨期の就航率は低い為、経費面を考えた場合、数週間連続して運休すべきだ」との意見も多く出ました。搭乗率については、平成元年度の試験運航開始当初、ヘリ・コミュニティの珍しさから、体験的に搭乗される方が多く、搭乗率は高めでしたが、平成

三年度、平成四年度にはほぼ落ち着いてきました。

また、他の航空便や船便への乗り継ぎ交通手段としての利用も増加し、大離島から小離島への利用者も定着傾向にある事が分かりました。しかし、通年運航となった場合の搭乗率予想としては小離島の人口が二〇〇、三〇〇名程度という事を考えると、「四〇%以下になるのでは？」との意見も多数上がりました。

当初、就航路線ならびに機数について、「伊豆諸島の八島間を二機体制で」という意見もありました。しかし、運航要員も二クルー必要で、ヘリコプターも予備機を含めると三機必要と

なり、莫大な経費がかかってしまいました。また、「本土とも結ぶ」事に関しては、羽田空港より全日空が、調布からは新中央航空が就航しており、小離島の生活基盤充実が目的のため、「六島を一機体制で」ということになりました。

事業主体としては、「民間会社に委託」、「東京都で自主運航」、「新会社設立」等、が考えられましたが、要員の確保、運航整備に関するノウハウ、安全性、航空局への事業認可等を考え、民間会社へ委託される事になり、日本航空協会からヘリコプターによる不定期航空運送事業を営む国内一六社に対し、資料提出の協力依頼がされ、

最終的に運航希望会社は四社になりました。

「伊豆諸島地域ヘリ・コミュニティ航空事業支援検討委員会」により、運航希望会社から提出された企画書の検討、事業会社へのヒアリングおよび現地調査等が行われました。総合評価の結果、安全運航を重視した当社が選ばれ、平成五年二月二十五日の東京都島しょ振興公社理事会で承認されました。

かつて、成田～羽田～横浜間を結んでいたヘリ・コミュニティ事業「シティ・エアリンク」の休止状態からも分かる通り、ヘリ・コミュニティ事業は補助金無しでは、運営が難しい事業

です。このため東京都はどこまで赤字を補助するかについて検討を行った結果、赤字を全額補助するという事ではなく、目標搭乗率を決めた上で収入に對する差額分を限度に補助する事になりました。

つまり、年間総経費を算出し収入予想との差額を限度に補助するもので、その収入予想は搭乗率を決めて算出している為、もし搭乗率が下がることで収入が予想を下回っても補助金の増額は、「無し」という事になります。運航会社も営業努力をしない、という事です。

本格的なヘリコプターによる二地点間旅客輸送事業ということで、航空局との再三にわたる調整の末、平成五年五月七日に『二地点間ヘリ輸送実施承認申請書』を提出し、七月一六日、無事承認、認可され、八月二五日から本格運航への運びとなりました。

「東京愛らんどシャトル」の運航は、国内で唯一のヘリコプターを使用した定期航空運送事業であり、安全の確保が最優先課題となりますが、お客様の「快適性」も重要な課題です。機体についてはキャビンの静寂性や快適性を、乗員については服装や接客マナー等についても気を配っています。

また、お客様のヘリコプターに対する認識がまだまだ浸透していないせいか、手荷物を入れるカーゴ・ルームの大きさを説明してもなかなか理解してもらえない事も多く、長い釣り竿や大きなクレーンを別送させて頂く等、ご不便をおかけしている事もあります。さらに搭乗人数が九名という事に驚かれるお客様も少なくありません。

しかしながら、「船便が欠航となったため、子供達が楽しみにしているキーキを何とか一緒に運んで欲しい」とか、「お葬式の供物を何とか間に合わせたいのだが」等々、真心を届ける役割も担う島民の生活に密着した運航となっていることも事実です。

このように、洋上の島々を結ぶ東京愛らんどシャトルのヘリコプターによる運航は、まさに限られた場所と離着陸できるヘリコプターの飛行特性を最大限に活かした形態での運航であり、これからも「島民の方々の翼」として、一人でも多くのお客様を安全かつ快適にお運びできるよう、その責務を果たしてまいります。心よりご搭乗をお待ちしております。

志田 陽 プロフィール

(しだ あきら)

東邦航空株式会社 コミューター室長

平成 2 年

平成 3 年

平成 5 年

平成 30 年

東邦航空株式会社に入社し営業部配属
コミュニーター実験運航に携わる
本運航開始とともに
コミュニーター室兼務
その他、報道・映画撮影・散布・調査・ドクターヘリ業務に携わる
コミュニーター室長に就任



ヘリコプターと共に 空路を支える

伊豆諸島への空路は、東邦航空株式会社のヘリコプターだけでなく、新中央航空株式会社のプロペラ機が調布飛行場から毎日運航しています。今回、島嶼の空路を支える、新中央航空株式会社大島営業所長の金崎和也氏に話を伺いました。

「閑散期は一日三便、夏の時期は四〜五便と便数を変えながら運航しています。私も大島出身なので、なくてはならない島民の生活路線を支えられることを嬉しく思いながら働いています。」と金崎氏。島の暮らしを支えたいという想いに溢れていました。

新中央航空株式会社インタビュー

広報委員 永堀日和子



運航時間は、気象条件等により異なる場合があります。

■新中央航空(株)の路線。
調布から大島まで僅か25分到着



■9〜19人乗りのドルニエ機



■左より新中央航空(株)の
金崎和也氏、前田憲二氏

「東京愛らんどシヤトル」搭乗体験記

広報委員 永堀日和子

いざ、ヘリコプターへ！

島嶼取材のため、実際に「東京愛らんどシヤトル」のヘリコプターを利用して頂き、大島から三宅島を経由し、御蔵島、八丈島へ向かいました。まず行ったのは、ヘリの予約。一ヶ

月前からHPで予約が可能ですが、定員九席のため、一か月先でも既に埋まりつつありました。早めの予約がオススメです。
搭乗当日。手続きは、大島空港内のヘリカウンターで通常の飛行機と同様の確認が行われました。ヘリコプター

には重量制限があるため、基本料金で持ち込める荷物は「一人一個」5kgまで、追加1kgにつき三三〇円かかります。荷物の重さで左右前後のバランスを保つ徹底ぶりでした。
機内では、上昇・下降中は電波を発する機器の電源オフの注意や、まもな



■機体を後ろに傾けながら滑らかに着陸（御蔵島ヘリポート）



■御蔵島から25分程度で目の前に滑走路が！着陸への期待が高まります（八丈島空港）



■大島空港にて搭乗手続き



■保安検査場を通ります

■窓からの景色

く着陸します、といったアナウンスが流れました。空の旅は大島から三宅島まで二〇分程度。一分弱で上昇し、一八分海上を進み、島についてから一分弱で下降するといった工程でした。上昇時は飛行機と同じく前進しながら進みました。機内はプロペラ音を遮断するためのヘッドホン着用の必要がなく、隣の人と会話ができるほど。ほぼ水平飛行で揺れもなく、とても安定感があり、快適でした。高度も高すぎず、まるで鳥になったような感覚。雄大な太平洋の風を見ながら進む、新体験でした。このときは、乗客席は全て満席。搭乗した広報委員以外はみな地元の方で、隣の島への旅行や、仕事で利用しているとのことでした。三宅島から僅か一〇分程度で御蔵島のヘリポートが見え、そこを目掛けて下降していきました。着陸時は垂直に降りるものだと思っていたましたが、機体を後ろに傾けつつ、徐々に前方へ倒しながらゆっくりと地面に近づいてゆくのに驚きました。普段は味わえない感覚に、はまっています。

あまり乗る機会のないヘリコプターが、こんなにも気軽に搭乗でき、楽しめるとは知りませんでした。皆さんも島嶼でのアクティビティだけでなく、移動までもまるごと楽しめる島旅を計画されてはいかがでしょうか。

御蔵島 「イルカと森と消えた集落」

今年の「グローバル関東」の特集が東京島しょ部に決まる前から、ずっと狙っていた御蔵島。ついに行ってまいりました。小笠原諸島や八丈島に比べると、あまり知られていないが、御蔵島で画像検索すれば、行きたくなってしまう気持ちをご理解いただけると思う。

御蔵島のイルカたち

御蔵島で検索すると、たくさんイルカたちの画像が並ぶ。これはぜひ逢いたい！ いうことで、民宿のイルカツアーに申し込んだ。一回のツアーで約二時間、島の周りを小型ボートで回りながらイルカの群れを探してくれる。御蔵島のイルカは定住型で、百頭以上が住みついている。一頭一頭に名前がついており、すべてが個体識別されているというから驚きだ。野生のイルカを守るため、「入水は八回まで」「近寄ってきても触らない」「追いかけない（追いつけるはずもない）」など、厳しくルールが決められている。

遠目に二〜三頭見られるかな、と思いつつ、船に乗り込む。覚悟はしていたが、割と揺れる。船酔いにおびえつつ、ガイドの方の合図で海に入ると、すぐそこにイルカが！ 遠目に二〜三頭というレベルではなく、二〇〜三〇頭の群れがゆつくりと泳いでくる。手でさわれそうな距離を次々と通り過ぎてゆき、イルカとずっと目が合っている。これは期待以上！ まだ小さくて白い

こどものイルカがいたり、若いイルカと一緒に遊んでくれたり、澄んだ海の中に夢のような空間があった。

島民にとってのイルカは、適度な距離感を保ちながらそれぞれで暮らす「隣人」なのだそう。昔は観光資源になるとは考えもしなかったが、今では多くのリピーターがおり、一人でイルカに会いに来た人たちが毎年御蔵島を訪れるグループなど、熱烈的な御蔵島ファンでにぎわっていた。

東京から大型客船で一晩、こんなに素晴らしい体験ができるとは思わなかった。私も完全に御蔵島ファンになってしまい、来年もイルカに会いに行くことを心に決めた。



■広報委員撮影。手でさわられるほどの近さ

消えた集落、南郷を求めて

海でイルカと（かなり濃厚に！）触れ合った次の日は、山にも登ってみることにした。断崖絶壁の御蔵島は、その上陸の難しさゆえに手付かずの自然が多く残っている。全国の巨樹の5%が御蔵島（御蔵島村）にあり、幹回り5m以上の本数は全国一位だとか。東京都のエコツーリズムにも指定されており、その豊かな自然を守るために認定ガイドの同伴なしで山に立ち入ることが禁じられている。観光協会では、ガイドの紹介とあわせて、ツアーコースも設定しており、島の神様稲根神社（いねのじんじ）お参りコースや新東京八景の御代ヶ池コース等、一〇のコースから選ぶことができる。

実は、地名の由来や土地の歴史を調べるのが大好きな私。御蔵島を訪れる前に目をつけていた「移住からわずか七〇年で消えた集落「南郷」もあわせて見に行けないかと相談し、島の歴史も一緒に紹介してくれるコースを予約



■直径 5km ほどのまんまるな御蔵島。断崖絶壁で上陸できる場所はほぼなく、島内の自転車使用が禁止されるほどの急斜面



■都道 223 号、7 月だけの隠れたサクユリの名所



■木が生い茂る原生林の中、あちらこちらに人が住んでいた痕跡を見ることができる。古い石碑には江戸時代に島を治めた伊豆の代官の名前（偶然にも筆者の高校創設者であった）



■伝統工芸のつけ細工でできた将棋駒を触らせていただいた。良質なつげの木は全国でも御蔵島にしかない貴重な資源。とてもすべすべ

した。当日の朝、認定ガイドの車で登山口まで向かう途中に、満開のサクユリが見られる秘密の場所を教えてくださいました。もともと島に自生していた品種だが、都道整備時にできた法面の日当たりがよく、群生するようになったそう。土木工事＝自然破壊と思われるが、人が手が入ったことで一気に芽吹く自然もある。思わぬところで道路の整備効果を知ることができた。ゆっくり歩いて半日、南郷集落の痕跡を見ながら原生林の中を進む。御蔵島は、島のほとんどが急斜面のために可住地がとて少なく、集落は一つしかない。

ガイドの方によると、「二十八軒衆」という村の掟があり、当初の二十八軒以外は集落内に戸建て住宅を建てること

ができない。島内に可住地・耕作地がとて少なく、天候次第では何ヶ月も物資が届かなかった御蔵島ならではの掟で、人口をコントロールして島民の

生活を守っていたそう。

そんな環境の中、それでも自分の家を持ちたかった人たちが新たに切り開いた集落が「南郷」である。元の集落から、険しい山道を四時間歩いた島の反対側に、ライフラインもない中で住居をつくり、木炭の製造や果物の栽培で生計を立てていたそう。唯一の収入源である木炭がガス化で売れなくなり、わずか七〇年ほどで廃村となった。緑ふかい山道を歩く中で、木炭を作っていた竈の跡や野生化した果樹、古い家屋や石碑等も多く見かけた。本当の意味でゼロから住む場所を作ったという、先人たちの思いを感じた。

——これからの御蔵島

山から下りたあと、これからの御蔵島について村長にお話を聞いてみた。おじいさまが南郷を切り開いた方だそう、小さい頃に暮らした南郷の思い出も話してくれた。今は村長となり、「豊かな自然や伝統工芸を未来に残す

ことが使命、そのためには島民を増やすための新しい集落が必要」と考えているそう、南郷の復活に向けて検討を進めておられるそう。御蔵島の伝統や自然を守るためには、御蔵島が発展できる人口を確保することが重要だそう。

村長の仰るとおり、この素晴らしい島がいつまでも残ってほしい、と強く感じた取材だった。私にできる小さな一歩として、また来年の夏も御蔵島のみなさんとイルカたちに会いに行きたいと思う。



■取材させていただいた御蔵島村の広瀬村長

戸谷——八千代エンジニアリングの戸谷と申します。道路交通部所属で、主に道路整備計画や交通計画といった業務に携わっております。

二〇一五年の一月に出産し、四月に復職後は主に管理技術者として、若い技術者とともに仕事に従事しています。今、子供が三歳になりましたが、時短をフル活用させていただいています。

湯本——今日は子育てのテーマですが、育休を取得した男性として参加させていただきました。私は大学で生物、農学を勉強していました。自然というものに興味があつて、建設コンサルタントに入りまして、今でも建設環境の分野の仕事をしております。

子供は二〇一二年に男の子、二〇一六年に女の子が生まれまして、上の男の子が生まれたときには、育休は全く考えませんでした。二人目の女の子のときは、気づいたら育休を取っていました。今、上の子が六歳で、小学一年生になりました。下の子はまだ保育園に通っています。夜に子供を迎えに行くことが難しいので、極力自分は朝を担当しようと決めて、朝御飯や着替え、下の子を保育園に連れていくことをしています。

三浦——協和コンサルタツツの三浦千加子と申します。私は主に都市計画をやっています。

二〇〇九年に第一子の女の子が生まれ、今は小学校三年生です。今日は、子育ての大変さよりも、皆さんの子育てを楽しむ工夫をお聞かせいただければと思っています。

小山——日本港湾コンサルタントの小山桂子と申します。今、二歳半の息子がいます。昨年四月に職場復帰をして、今は保育園に預けながら仕事と育児を両立しています。



座談会

Civil エンジニアの子育て

高野 登 戸谷 奈穂子 湯本 裕之 三浦 千加子 小山 桂子

於：東京国際フォーラム G603 会議室

今日は、これから入ってこられる方々や現在働いている方に、私なりの経験を伝えることが出来たら、と思います。参加させていただきました。

高野——関東支部で支部長をしている高野です。私は昭和五〇年に日本工営に入社して、四〇年近くになります。専門は河川計画なので、河川の治水・利水計画、河川整備計画などの立案等にかかわってきました。他にも、水循環とか雨水貯留浸透関連の業務にも従事しました。

建設コンサルタントは忙しいといわれることが多いですが、近年、相当に改善されてきていること、さらには、建設コンサルタントの仕事の楽しさを多くの人に知っていただきたいと思っています。

早い！もう四時か

三浦——湯本さんは育児休暇を取られたのですね。

湯本——私は、二人目が生まれて八カ月ぐらいは妻が産休・育休で、そこから半年間、子供が一歳前後の頃に自分が育休をとって娘と過ごしました。半年間、娘と過ごせてとても幸せでしたが、その半年間が終わったら、娘はすぐママ、ママって戻りましたね。ママには勝てないですね。

三浦——育休の間って、大体どういうタイムスケジュールなのですか。

湯本——実際に取得する前は、上の子を保育園に連れて行ったら、あとはテレビとか見ているのかなって思いましたが、意外とそんな時間はなくて、実際は常に忙しくなにかし

ている感じでしたね。

三浦—— そう、そう、そうなのです。

湯本—— 気づくともう夕方四時か。早い！
そんな感じでした。

仕事と育児の両立

湯本—— 育休期間もそうですが、子育てしているとき時間の調整と役割分担には気を使いますよね。みなさんどうされていますか？

戸谷—— 我が家では、朝が私の担当、夕方のお迎えは夫の担当にしています。夫が朝早い仕事なので、良いバランスなのですが、夕食準備、お風呂と私がやらなければならぬこともたくさんあるので、六時ぐらいには、帰り支度をしなくてはなりません。ですので、夕方が一番忙しいですね。

湯本—— 部下の皆さんの意識というか、感覚はどうですか？

戸谷—— 夕方四時ぐらいになると「今日は何時に帰りますか」と聞かれます。「今日は六時ぐらいには帰りたい」と言うと、そこから社内での打合せが始まることが多くあります。

三浦—— 我が家は、もう卒園したので大分楽ですが、幼稚園の頃は、私が送り迎えともにやっていました。一歳から二歳のときは朝の送迎は旦那さんが担当してくれていましたが、ある日見たら、髪型がひん曲がっていました、忘れ物が異常に多かったりしたので、できるだけ二人でチェックするなど助け合うようになりました。湯本さんは、女の子がいっぱいやるのですよね、そんなことがありますか？



■近所の公園にて（湯本さん提供）



■育児休暇中に自宅でのご飯タイム（湯本さん提供）

湯本—— 例えば保育園に子供を連れていきませんが、子供だけ連れて荷物をそのまま家に全部忘れてきたことはありますね。上の子供を小学校に連れていった後、また保育園に寄って会社に行くことになりました。

戸谷—— ありますよね。同僚から子供の忘れ物を小学校に持っていくてから出社するので三〇分ほどおくれますとかメールが入ったりすると、あるあると、うなずくことがあります。朝、保育園に行くと、男性が送迎している姿を見かける機会が増えたような気がします。スーツ・作業着を着たパパが来ていて、みんな頑張っていると思いますね。

小山—— 増えましたよね。確かにね。

湯本—— 朝は半分以上、男性ですよ。

小山—— 私の主人も、朝は必ず送ってくれますね。ただ、忘れ物が多いのは同じですね。

でも、女性一人で全部背負うのはつらいので、一緒にやろうよと、旦那さんにうまく働きかけるのも大切ですね。

有効に使える各種制度

三浦—— 子育てに関する法整備も進んできていますが、会社独自の取り組みってあったりしますか？例えば私の会社では、三歳まで時短勤務が認められていたりします。

戸谷—— 私の会社では、小学校一年生になるまでに拡充されていますね。

小山—— 私のところは時短もありますが、朝一〇時から四時半がコアタイムのフレックスタイムを導入しています。ですので、旦那さんに朝の送迎に行ってもらっている間に、掃

除や夕飯の支度を全部バートと済ませてから一〇時に出社しています。

他には、週一日は、家でパソコンと電話を使って仕事ができる在宅勤務制度があつて、会社全体では介護も含めて三人ほど利用しています。通勤がないだけでも時間的には楽ですし、特に子供が熱で預けられない時に助かっています。

戸谷——通勤時間分だけでもかなり違いますよね。

高野——建設コンサルタツツ協会の会員企業を調べてみると、フレックスタイム、在宅勤務、サテライトオフィスなどを導入している会社は多いです。法定の育児休業は、子供が一歳までだけど、それを三歳まで延長している会社も多いし、子供の看護休暇は一人目が五日、二人目が一〇日なのですが、それを延長している会社も結構ある。そんな話を聞いていると、建設コンサルタツの職場環境は、ほかの業界に比べてもそんなに悪くないどころか、むしろ進んでいるのではないかと思います。そういう制度を上手に活用して、皆さん子育てされています。

三浦——私の会社では、子育てする人が自分で提案して制度を作っています。稟議りんぎが通ると、次の人もその制度を使えるようになる。私も、時短の延長を提案しましたし、今はサテライトオフィスを提案しようとしています。自宅や営業所での勤務、新たにサテライトオフィスを立ち上げることも検討しています。

戸谷——我が社では、昨年、フレックスタイムと一時在宅勤務の試行を実施しました。一時在宅勤務は子育て期の社員を対象に試行期間中、週二回の在宅勤務を可能としました。



■男性の送迎は見慣れた光景に
(建設技術研究所提供)

会社まで往復三時間以上かけて通っている社員もおり、効果的に活用していました。

また、ベビーシッター補助として、ベビーシッターを利用したい場合、補助券が支給される制度を行っています。提携しているベビーシッター会社にお問い合わせすることで、一回につき二〇〇〇円程度割引になります。

三浦——私はファミリーサポートセンターを使っています。全国の預けたい人と預かっていいよという人を繋いでくれます。一応、費用も決まっていますが、資格を持っている方ではなくて、半分ボランティアのような互助の仕組みです。

小山——いわゆるマッチングみたいな話ですね。

三浦——私の場合、一回預けると五〇〇〇円掛かります。ですので、何回も会議があると、すぐ一万とか二万とかになるので、会社でいくらか費用を負担してもらえらるともっと利用しやすくなると思います。

高野——例えば、発注者との打ち合わせなどでも出かけていくのではなく、スカイプなどを使って、テレビ会議でやりましょうという提案もしていて、試行が始まっています。労働環境の改善や生産性向上も、そういう効果が見えやすいところから始めるのもよいと思っています。

戸谷——子育てをしていると、出張が難しくなるので、もしスカイプで参加できれば、すごくうれしく思いますね。

湯本——外部とはやったことないですが、支社とのテレビ会議とか、ちょっとした打ち合わせなど、社内では結構使っています。

小山——弊社もテレビ会議を導入しているので、講師を呼んで会社で講習会とかやる場合は、それを各支社に全部配信するなどしています。

戸谷——土木業界って、面と向かってやらなきゃみたいな雰囲気ってないですか。

小山——確かに、図面を広げて話し合うというのが結構あるので、なかなかテレビ同士でつながってというのは、意見が出にくい面もあるかもしれませんね。

高野——でも、慣れや工夫の余地もあると思います。そういう新しい良いものを活用して、無駄な時間を減らした方がよい。そのための仕組みやインフラを整備していくことも業界の責任だと思っています。

育児と生産性向上

高野——私も驚いたのですが、私の会社に出張先へ子供を連れて行く人がいます。彼女は名古屋、大阪、福岡などへ出張する際に、出張先の保育施設を予約していく。そこへ子供を預けて、打ち合わせしてから一緒に帰ってくる。

他にも、五時で必ず私は帰りますと宣言して、一日何をするか、自分ができない仕事は誰に頼むか、作業分担を考えて出勤します。彼女は、

結婚する前は遅くまで残業していることもあったのですが、結婚を機に仕事の効率を上げるということを実践したそうです。

結婚や子育てはきつかけではありませんが、高い意識をもって日常の仕事の取り組み方を見直せば、仕事と育児を両立できる好事例だと思っています。

湯本——私も子供が生まれてからは、朝に、今日一日の計画をたてるようになりました。

最初は計画通りになんていかなかったのですが、続けているうちに、だいぶ時間を意識して仕事ができるようになってきました。

戸谷——建設コンサルタントの仕事って、一か月とか、一週間の中で自分なりにスケジュールを立てられる仕事ですよ。一日にこまですべてをやらなければいけないような仕事だと、それが終わらなければ帰れないと思いますが、私たちの仕事は、自分なりにコントロールできるというメリットはあります。

小山——私は、今週は何曜日と何曜日には残業したいなど一週間のスケジュールを旦那さんに相談していますね。確かに、独身時代や子供がいなかった頃と比べると、仕事のさばき方、コントロールの仕方は上手になりました。子供のおかげかな、相当効率化しているというのは実感しています。

戸谷——仕事は楽しいので、あれもこれも自分でやりたいとなりがちですが、すべて自分で抱えてしまうと、最終的に仕事が回らなくなって、周りに迷惑をかけることにつながります。チームで仕事をする、人と分担してやるという意識を持つことが大切ですね。

高野——生産性を上げるには、仕事を一人で



小山 桂子

株式会社日本港湾コンサルタント

三浦 千加子

株式会社協和コンサルタンツ

湯本 裕之

セントラルコンサルタント
株式会社

戸谷 奈穂子

八千代エンジニアリング
株式会社

高野 登

建設コンサルタンツ協会
関東支部 支部長

日本工営株式会社
代表取締役会長

抱え込むことをやめることが必要です。この人しかできない仕事を、マニュアル化や情報の共有を促進して、ほかの人でもできるように変えていく、チームで仕事をする体制に変えていく、これはとても大事なことです。

周囲の理解・協力

戸谷——計画を立てていても、保育園からの急な電話でお迎えとかもあるので、自分が今日やらなくてはいけない仕事が出来ないということも起こります。そういう時に、周りの人が、やっておきますよと言ってくれると、すごく有難いですよね。それができるのも、私の仕事の中身や状況を周囲が理解してくれているからだと思っています。

三浦——それって戸谷さんが助けてあげることとあって、お互いに良い循環になっているからだと思いますよ。

戸谷——私は助けてもらっていることの方が多いと感じていますが、確かに、同じ世代で子供が小さかったり、共働きであったりという方も多いので、お互い様という雰囲気はありますね。

また、私の場合、妊娠した際や、復職してからの時短勤務などの自分の状況について、発注者に伝えるようにしています。そうすると、発注者の方も、明日で大丈夫ですから、とか氣を使っ下さいます。

小山——私は、この間、帰らなくてはいけない時間なのに、発注者との電話が終わらなくて、その時はやむにやまれず「子供を預けていて、お迎えがあるのですみません」といつ

で電話を切ったことがありますね。その一度だけかなと思います。なかなか私は、そういうプライベートな事をお伝えするのはまだ抵抗がありますね。

三浦——私は言うようにしていました。打ち合わせの開始前に、今日は、三時の電車で帰ります！と宣言してしまうのです。そうすると効率的にやろうと打ち合わせが早く終わるようになります。嫌な顔なんてされないし、みなさん協力してくれますよ。自分でなんとかしなきゃと思うより、皆さんに理解してもらって助けてもらう、そして感謝するようにしています。

戸谷——こちらが言わなくても「もうこんな時間ですけど帰らなくて大丈夫ですか」と心配して下さったりもしますよね。

湯本——発注者も水曜日はノー残業デーですよねって結構気にしてくれるようになってきていますよね。そういう意識は確実に変わってきているのは実感していますね。

三社共同保育所の設置

戸谷——新しい動きとしては、四月から、長大、建設技術研究所、八千代エンジニアリングの三社で秋葉原駅の近くに保育園を立ち上げています。三社で検討会をして一年間かけて場所や保育時間を決めながら実現しています。

建設コンサルタントで働く方が対象です。で、朝七時半から夜八時半まで預けることができるようになっていきます。残業もできる、打合せから帰宅する時間まで預けられるなどを考慮し、設定しています。



■日本工営の社内保育所「N-kids」での夏祭り（高野支部長提供）



■3社合同のかけはし保育園（建設技術研究所提供）

高野——何人ぐらい利用しているのですか。

戸谷——今は、建設技術研究所さんから一名という状況です。定員が二人なので、まだまだ余裕があります。また、無認可保育園に預けて仕事をしていると認可保育園に入園しやすくなるので、少し早く復帰して無認可保育園である三社共同保育所に預けるという使い方もあると思っています。

小山——預けられるのは何歳からですか？

戸谷——〇歳から預けられます。待機児童は〇歳、一歳が多いので、そのようにしました。もちろん、三歳以降も定員に空きがあれば継続して預けることも出来ます。

小山——私の会社では三歳で困っている方も結構います。〇歳から二歳までの小規模保育が結構あるのですが、三歳からは普通の保育園に行ってくださいとなるのです。ところが、普通の保育園では、持ち上がりで上がってきていて、三歳からの入園の枠があまりないということもあるようです。

湯本——この三社で話が持ち上がったというのは、どういう経緯ですか。

戸谷——同業者が近隣に立地している五社で、まずは共同保育所に関する検討会を立ち上げました。その後、保育所を設置する段階で、三社で行うことが決定いたしました。残り二社については、当面該当者がいらっしやらないとのことで、設置の際には参加しないこととなりました。

高野——私の会社では、二〇一六年に自社で作りました。生後三ヶ月から六歳児まで預けられるようになっていて、定員は一〇名です。先ほどもありましたが、普段は地元に預

けている方が、今日は残業になりそうとか、今日は迎えに行くのが難しいとか、そういう場合に一日単位でも利用できるようにしています。

戸谷——三社共同保育所でも、一時保育には対応しています。

高野——会社の中の保育所はそういうメリットもあるけど、通勤電車で連れてくるのは大変だというデメリットもあります。会社の支援制度としては、居住地の近くの保育所に預けられるような、補助金制度などもよいかもしれないですね。

でも、単にお金を出すだけにとどまらずに、子育て世代のために、自社や共同で保育所を設置するところまでできたのだから、建設コンサルタントもずいぶん進歩したよね。

仕事を子供と一緒に楽しむ

三浦——よくワークライフバランスって言われますが、家族も仕事に巻き込んで楽しんでおおう、というのが私の今のコンセプトです。先ほど子供を出張先に連れていく方がいると伺いましたが、実は、私もそれに近いことをやっています。ただ、預け先まで見つけるのは大変なので、役場には子供が遊ぶスペースありますよね。あそこでちょっと遊んでって、遊ばせておいて、打ち合わせしたこともあります。もちろん少し大きくなって、加えて役場の人の理解も必要ですけど。

他にも、住民参加のワークショップって、夜や休日が基本ですよ。ああいうのは、子供だけじゃなくて、旦那さんもつれて一緒に出掛け



■完成した塩山駅のフリースペース（三浦さん提供）



■甲州市のまちづくり支援にて、手作りの事務所開設に娘と一緒に参加（三浦さん提供）

たりしています。こういう仕事しているのだ、面白いねとか、家族で共有できます。

小山——私は姉が新潟に住んでいまして、新潟県が発注者の仕事で、子供を連れて一緒に行って、姉のところに子供を預けて、打ち合わせしてきたことはありますね。

湯本——私は妻もコンサルなので、公園の長寿命化でどこの公園が見たいとかいう話になって、土日に一緒に行くことはあります。仕事でもありますが、公園ですから遊びですよ。

戸谷——皆さん似たようなことをされていますね、私は道の駅の仕事もしていたので、休日に道の駅めぐりとかもしましたね。

三浦——子供にとっても、親の仕事に触れるって良いことだと思います。私がドキッとしたのは、子供が、お母さんの会社に入るからって言ったのです。今、学校でも、町づくりの研究とかしているの、興味をもってくれたのかなと思います。

仕事とプライベートって分けちゃってバランスをとるのではなくて、子供や旦那さん、親戚や役場の人、いろんな人を巻き込んで楽しんでいうと面白いですよ。

高野——今日皆さんの経験談を聞いて、会社や自治体の制度を活用したり、業務の進め方を工夫するなどして、子育てと仕事を上手に両立されていると感じました。

女性の社会進出が進み、雇用者総数に占める女性の割合が四割を超えた一方で、約半数の女性が出産を機に退職してしまうと聞きます。働く女性が出産後も子育てと仕事を両立できる環境の整備と関係者の理解が深まるこ

とが望まれます。

建設コンサルタント協会では、会員企業へ出産・育児支援、在宅勤務等の多様な働き方等の情報提供や勉強会を開催しているほか、発注者に対しても労働環境の改善や出産・育児支援を要望しています。今後も建設コンサルタント業界で働く人達が、男女を問わず子育てや仕事を両立することが当たり前になるような環境づくりに尽力していきたいと思っています。

子育てと仕事を両立することはもちろん大変な面があると思います。しかし、今日座談会に参加してくださった皆さんのように、子育てと仕事を上手に調和させることで、双方にポジティブな効果を生み出し、生き生きと活躍するエンジニアが増えていくことを期待しています。

高野 登 (建設コンサルタント協会 関東支部 支部長 日本工営株式会社 代表取締役会長)

一九五二年九月生まれ、富山県出身。東京大学農学部卒業後、日本工営株式会社に入社。河川計画が専門。主として河川の治水・利水計画を担当。水循環再生計画や雨水貯留浸透関連業務にも従事。

一九九九年河川・水工部長、国内事業本部事業企画室長、営業企画室長を経て二〇一一年取締役。その後国内事業本部長、副社長を経て二〇一七年代表取締役会長に就任。社外では(一社)電力土木技術協会理事、(二社)日本ダム協会理事、(二社)日本ダム会議理事、(二社)建設コンサルタント協会では河川計画専門委員会委員、技術委員長、技術部会長を歴任し、現在は副会長と関東支部長を併任。趣味は囲碁、散策。



戸谷 奈穂子 (八千代エンジニアリング株式会社)

一九七六年生まれ。一九九九年に芝浦工業大学工学部土木工学科を卒業し、八千代エンジニアリング株式会社に入社。入社後は、道路交通に関わる計画分野に従事し、道路整備計画、交通計画、交通解析、自転車整備計画等の業務に従事。

平成二七年に第一子出産に伴い産休・育休を取得。復帰後は時短勤務制度を活用し、子育てと仕事の両立に奮闘中。休日はなるべく子供との時間をたくさんとるよう心掛けている。

湯本 裕之 (セントラルコンサルタント株式会社)

一九八〇年神奈川県生まれ。明治大学大学院農学研究科を卒業し、二〇〇五年にセントラルコンサルタント株式会社に入社。入社後は主に自然環境分野の業務に従事。社外では(一社)建設コンサルタント協会の環境専門委員会の委員を担当。二児の父。家庭では自分が朝の家事、妻が夜の家事を分担。毎朝、家族の朝食の準備をし、下の子(二歳)を保育園へ送り届けてから出社。趣味は家族・友人とキャンプ、山登り、自然観察など。

三浦 千加子 (株式会社協和コンサルタント)

一九七一年新潟県生まれ。一九九四年茨城大学生物生産学科を卒業し、(株)協和コンサルタントに入社。

入社後は計画グループに配属、一時退社(契約社員)を経て、入社以降は一貫して計画業務を担当。都市計画、道路交通計画、施設計画、防災計画、地域活性化検討、住民WSなど様々な分野の計画業務に従事。一児の母・計画部門の専門職として「楽しく生きる!」を実践すべく、仕事と子育てに日々奮闘中。

小山 桂子 (株式会社日本港湾コンサルタント)

一九八一年一月、埼玉県出身。二〇〇六年に東海大学大学院海洋学研究科海洋工学専攻を修了し、株式会社日本港湾コンサルタントに入社。入社後は、水理関連(波浪解析、津波解析、海岸侵食等)の業務に従事。平成二五年に結婚をし、平成二八年三月に第一子の出産および育児休暇を取得、平成二九年四月から会社へ復帰している。子供を保育園に預けながら、育児・仕事の両立を図り、毎日が新鮮な経験となっているが、悪戦苦闘の日々が続いている。休日は溜まった家事を行っているが、家族で海に出かけSUPや子供と砂浜遊びなど、自然と触れ合うような休日を通して、心を掛けている。

建設コンサルタンツ協会の取り組み

日 本の人口は減少に転じ、六五歳以上の高齢者が人口に占める割合は二〇%を超えて先進国の中でも先頭を走るなど、高齢化社会を迎えつつある。一五歳から六四歳の働き手も減少しており、日本社会に深刻な影響を与えている。建設業界も例外ではなく、担い手の確保・育成が喫緊の課題となっている。

建設コンサルタンツ協会においても、国土交通省や地方自治体との意見交換会での「建設コンサルタンの要望と提案」において、第一の要望事項として「担い手の確保育成のための環境整備」を挙げるなど発注者も巻き込んで積極的に取り組んでいる。具体的には、業界の健全な発展、建設コンサルタント技術者の魅力ある労働環境の整備に向けて、長時間労働の解消、女性・若者が活躍しやすい環境整備、子育てや介護等と仕事の両立などが挙げられる。

一、業界の健全な発展

(一) 生産性の向上

i-ConstructionなどICT技術を活用した生産性の向上や生産プロセスの改善により、生産性を向上し、短い時間でも高い品質の成果を上げられるように取り組んでいる。

(二) 技術者単価の引き上げ

技術者単価のアップを毎年要望。



■技術者単価の推移

最近六年連続で上昇し、二〇二二年から技術者単価は二・四%上昇した。企業経営の安定と労働環境の改善を急ピッチで進めている。

二、魅力ある労働環境の整備

(一) 就業環境の改善（働き方改革）

建設コンサルタンツ協会では、就業環境の改善に積極的に取り組んでおり、以下のような取り組みを行う会員企業は年々増加している。

・ノー残業デー



■社内保育所の実例（N-Kids・高野支部長提供）



■ノー残業デーの取り組み

(二) 制度面での整備

女性が参画しやすい環境整備に向けて、国土交通省等に制度面での

- ・ウィークリースタンス
- ・育児休業、産前産後休業の制度
- ・男性の育児休暇取得推奨
- ・裁量労働制
- ・在宅勤務
- ・保育所の整備
- ・サテライトオフィスなど

三、会員各社の福利厚生制度

(一) 子育て支援制度

建設コンサルタンツ協会の会員各社では、法定制度で求められる水準を超えて、独自に福利厚生制度を充実させている会社も多くある。例えば以下のよう制度がある。

(二) 育児休業の充実

法定では、一歳までのものを三歳まで、あるいはもっと長期にわたりに上乗せして制度化。

(三) 子の看護休暇

法定では、子供一人で五日、二人で一〇日、無給であるが、日数の増加や有給とするなど拡充。

(四) 育児短時間勤務制度

法定では、子が三歳までであるが、小学校卒業までとするなど拡充。

(五) 介護休業

法定では、九三日であるが、一二か月までとするなど拡充。

※これらの取り組みは、会員企業での実施の一例です。



坂東の原風景

新宿副都心 (旧淀橋浄水場)

広報委員 千田 純也

西新宿は、日本でも屈指のターミナル駅である新宿駅の西側一帯に広がる超高層ビル群を有する「新宿副都心」と呼ばれる地域名・町名であり、元々淀橋浄水場があった土地である。昭和四十年に浄水場としての役割を終え、現在の跡地は再開発事業により超高層ビル群が林立し、日本最大級のオフィスビル街を形成している。

淀橋浄水場の歴史

明治維新以前の江戸上水は神田上水と玉川上水を水源とするものだったが、明治になり東京では水質悪化が問題視されていた。明治十九年に東京でコレラが大流行したことがきっかけとなり、淀橋町に浄水場が建設されることになった。淀橋浄水場は明治三十二年に竣工し、ようやく東京に近大水道が誕生したことになる。

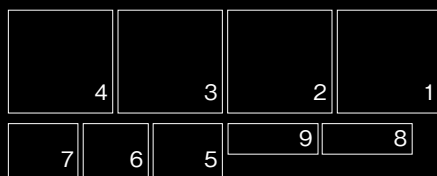
大正十二年に起こった関東大震災により、住居を失った東京市民は広い山の手郊外に土地を求めるようになり、西新宿一帯は住宅地となったが、新宿駅の西口は当時閑散としており、新宿の繁栄のた

め広大な面積を占める浄水場の移転が大正末期頃から地元民によって要望された。昭和七年に東京市第二水道拡張計画案が東京市会に提出され、淀橋浄水場の機能を東村山市に移転することとし、移転を前提とした街路計画を策定する。しかし第二次世界大戦の戦局が悪化したため、実施は戦後に持ち越された。

昭和三十五年に東村山浄水場が竣工し通水すると、淀橋浄水場は廃止に向けて動き出す。その後昭和四十年に淀橋浄水場は廃止され、約七十年の歴史に幕を閉じた。これは施設として老朽化したからではなく、新宿副都心建設としての大目的があったためである。

新宿副都心として

新宿駅の東側は宿場町として内藤新宿（現新宿御苑）があったが、当地は宿場からやや離れた位置にあり、江戸時代はほとんどが農村であった。明治十七年に新宿駅が開業し、また明治三十二年に淀橋浄水場が完成したことによって、この付近にも住民が住み始めるようになり



- 1：昭和 22 年当時の淀橋浄水場
- 2：昭和 41 年当時の西新宿一帯 廃止された浄水場
- 3：昭和 46 年当時の西新宿一帯 京王プラザホテル完成
- 4：昭和 50 年当時の西新宿一帯 浄水場跡地に超高層ビルが建設され始めた
- 5：昭和 54 年当時の西新宿一帯
- 6：平成元年当時の西新宿一帯 新都庁が建設中
- 7：平成 4 年当時の西新宿一帯 新宿アイランドタワーが建設中
- 8：旧淀橋浄水場時代六角堂
- 9：エルタワーにある淀橋浄水場正門跡地

住宅地が形成された。

やがて東側では伊勢丹デパートや中村屋、高野商店、新歌舞伎座、帝都座、ムーランルージュ新宿座など施設が集中して繁華街として栄えたが、西側には商業集積は何もなかったため、地元民から新宿の繁栄の為、淀橋浄水場の移転が要望された結果、新宿副都心計画が策定された。これは移転した跡地に高層ビル群などを建設し、一大商業エリアにするというものである。

そこで財団法人新宿副都心建設公社を設立し、公共施設の整備と浄水場移転、跡地の宅地造成を行い、公社によって造成された宅地は東京都水道局において売却され、そこに建設される建築物は譲渡を受けた民間企業によって建設されることとなった。そうして昭和四十六年京王プラザが建設されたことを皮きりに二百品超の高層ビルが次々と建設され街のシンボルとなっていた。平成三年に東京都庁舎が移転開庁したことによってほぼ現在みられる街の姿が完成した。

【出展写真について】

一部を除いて国土地理院 地図・空中写真閲覧サービスを利用しています。

(<https://maps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>)

※航空写真を加工して作成

伊豆大島の土砂災害からの復興で活躍する建設コンサルタント

広報委員 畑 浩太／鈴木 美咲

近年、台風や集中豪雨による水害や土砂災害が後を絶たず、毎年各地で大きな被害が発生している。二〇一八年も、「非常に強い」勢力を維持したまま台風二一号・台風二四号が日本に上陸し、各地で大きな被害をもたらした。

ここでは、二〇一三年一〇月に発生した伊豆大島の土砂災害において、発災直後の災害査定、復旧後の避難計画策定の対応にあたった会員各社の奮闘ぶりの一部を紹介する。

観測史上二位を更新する豪雨

「平成二五年伊豆大島土砂災害記録誌（大島町）」によると、平成二五年（二〇一三年）一〇月一日に発生した台風二六号は、発達しながら日本付近に近づき、一〇月一日未明に強い勢力を維持したまま伊豆大島に最接近した。台風二六号の接近に伴い、一〇月一六日未明から伊豆大島では激しい豪雨となった。元町地区では、一時間に一二・五mmの猛烈な雨が降り、二四時間降水量では、八二四・〇mmを記録した。一時間降水量及び二四時間降水量は、観測史上

位の値を更新したとのことである。

この豪雨により一六日午前二時から三時頃、元町地区上流域の大金沢を中心とした溪流において、流木を伴った土石流が発生した。大金沢流域では、広い範囲で発生した土砂や流木が、神達地区付近や下流流路沿いに河口付近まで堆積した。

被害のすさまじさについて、当時、消防団員として最前線で救助にあたった新中央航空株式会社大島営業所長 金崎氏の話聞いた。

——その日は、消防団の担当の日だった。当日夜中一時に召集がかかったため、0時ごろ家を出たが、すでに道路は冠水が始まっていた。今まで経験したことがないような状況だった。

夜中の二時過ぎ、土砂崩れが発生したとの連絡があった。ポンプ車で御神火スカイライン方面に出動したが、冠水や流木がひどくポンプ車が立往生してしまった。救助を求められていたが、現場にたどり着くことができず、非常に残念。二度とこのような災害が起こらないことを願っている。



新中央航空株式会社
大島営業所長金崎氏





■元町地区から御神火スカイラインを望む、木のあまり生えていない部分が土砂災害の爪痕

今回の災害によって、大島町では、死者・行方不明者は合わせて三九名、負傷者二二名の被害が発生した。死者は、全て元町地区で発生している。建物被害は、全壊一三七棟、大規模半壊二八棟、半壊四九棟、一部破損一八六棟であった。

土砂や流木の堆積あるいは土砂の流入によって、島内の都道や町道は被害を受けた。中でも、町道元村三原山線（御神火スカイライン）は大きな被害を受けた。

五社による災害査定設計

その被害に対する、災害査定設計の依頼が東京都から建設コンサルタンツ協会に入ったのは一〇月末である。本来は大島町からの要請になるが、大島町は技術職員が少なく対応が困難という事情から、大島町長より、東京都知事あてに「大島町道災害復旧に関する技術支援」の要請があり、それを受けて東京都建設局から建設コンサルタンツ協会に支援要請があった。

支援の内容としては、翌年一月に実施予定の災害査定に向けて、年内までの短い作業期間で、被災を受けた町道元村三原山線（御神火スカイライン）及び泉津地区他町道六線の災害査定資料作成を行うものであった。

この支援要請に、応諾の回答を行った会員会社五社で作業を分担した。幹事会社であった日本工営株式会社 藤木氏に話を聞いた。

——各会社が区間ごとに責任を持って対応できるよう作業工区を設定し、連携・協力を図りながら被災状況調査や各種設計を実施した。実質作業期間一ヶ月という短期間で二〇一三年度最後の災害査定への対応を行った。



■現地での被災状況調査の様子（日本工営株式会社 藤木氏提供）



■土石流の横断による道路の崩壊状況（日本工営株式会社 藤木氏提供）

これらの対応は、建設コンサルタントとして早期復旧という使命感に駆られ不眠不休で対応し、被害調査から災害申請書作成

大規模崩壊斜面は砂防事業で対処することになったため、道路事業としては、必要最小限の「のり面」対策として、原形復旧を基本に、主に路肩や路体の再構築を行う目的として実施した。早期復旧、工事用道路としての現道活用の施工性、国立公園内の景観配慮、土石流の原因となる大規模盛土の抑制、雨水対策による再度災害の防止等を視点として、被災メカニズムに応じた対策案を整理した。

これを現場条件に当てはめて、コンサルタント五社間で設計思想の統一を図りながら、円滑に作業を実施した。また、合同会議の開催で意思の疎通を図り、メーリングリストや共有ファイルサーバー等を活用して情報を共有し、連携・協力を図りながら対応した。その結果、一月中旬に図面・数量の提出を、また一月末には二〇一三年度最後の災害査定を無事終了することができた。



■対応位置図（<https://www.town.oshima.tokyo.jp/img/kanko/oshima-map-monitor.gif> に加筆）

大島町
平成26年5月31日

土砂災害警戒判定
メッシュ情報

特別な警戒を要する地域		気象情報 + (町の判断)		その他の警戒を要する地域	
町民の行動	大島町の対応	気象情報、防災行政無線放送に注意	大雨注意報 + 強い雨が予測 または暴風で強い雨が降った場合	町民の行動	気象情報、防災行政無線放送に注意
災害時要配慮者など、避難に時間のかかる方は避難を開始	災害時要配慮者への支援開始	大雨注意報 + 強い雨が予測 または暴風で強い雨が降った場合	大雨警報	災害時要配慮者など、避難に時間のかかる方は避難を開始	災害時要配慮者など、避難に時間のかかる方は避難を開始
それ以外の方は避難準備		大雨警報 + 強い雨が予測 または暴風で強い雨が降った場合	土砂災害警戒情報	それ以外の方は避難準備	それ以外の方は避難準備
避難開始!!	避難勧告!!	土砂災害警戒情報	土砂災害警戒情報	避難告!!	避難開始!!
まだ、避難が完了していない方は、直ちに避難		土砂災害警戒情報 + 周辺で土砂災害が発生した場合	土砂災害警戒情報	避難指示!!	まだ、避難が完了していない方は、直ちに避難
危険が差し迫っている場合、生命を守る行動を取る			避難指示!!	危険が差し迫っている場合、生命を守る行動を取る	

□気象庁が発表する気象情報は、大島町全域が対象となります。町が行う避難勧告などの発令は、土砂災害警戒判定メッシュ情報を基に、どの地域に危険性があるか確認して、判断します。大雨警報などが発表されても、大島町全域に避難勧告等が発令されるわけではありません。

□土砂災害ハザードマップ(別紙)や避難基準は、**暫定的な運用**です。避難基準はその後の降雨の履歴と土砂災害の発生状況、警戒を要する地域は**安全対策、現地調査など**を踏まえ、それぞれ適宜、**見直し**を行います。

□夜間に大雨など**予想される場合には**、左記の避難基準に達する前に、避難準備、勧告などを発令する場合があります。

避難と準備の心得

- ☐ 避難所、経路、自宅や周辺の危険箇所の確認をしておきましょう。
- ☐ 防災行政無線放送の内容や消防団員などの指示にしたがって避難行動をしてください。
- ☐ 近所ですぐ声を掛け合い、高齢者などの安全に配慮してください。

□ **逃げ遅れた場合**、崖崩れや沢の氾濫が発生しているとき
 もありますので、**近所の頑丈な建物の2階など安全な場所**
 を守る行動をとってください。

□崖崩れなどの前兆現象には、**地鳴り、山鳴り、石のぶつ
れ・盛り上がり、水の濁り・斜面からの噴出**などがあります。
ちに避難してください(前兆がない場合もあります)。

□警戒を要する地域以外でも、崖、沢などが近くにある場合に注意し、身を守る行動を確認しておきましょう！

お問い合わせ 大島町役場 防災対策室 049

土砂災害警戒判定
メッシュ情報

1	2	3
4	5	6
7	8	9

メッシュ情報の方

メソッド情報

■	実況で土砂災害 警戒基準を超過
■	予想で土砂災害 警戒基準を超過
■	大雨警報の土壌 雨量指数基準を超過
■	大雨注意報の土壌 雨量指数基準を超過
■	大雨注意報の土壌 雨量指数基準未達



までを短期間で完了させたものである。

新たな避難計画の策定

こうした早急な災害査定、迅速な復旧工事とあわせて、二度と甚大な被害を出さないためには、避難計画の策定などのソフト対策が重要となる。我々建設コンサルタント会社は、このような避難計画の策定にも

■二〇一四年に策定された避難計画

大きく関わっている。

避難計画とは、災害が予想される際に、避難する際の基準や避難場所、避難を誘導するタイミングなどを事前に計画し、周知しておくものであり、大島町の避難計画は、二〇一四年に策定された（以降、随時更新中）。

大島町は、町民約八千人に対して、高齢化率は約三五%と高く、高齢者を含む災害時要配慮者が島内に点在していること、毎年約二〇万人の観光客が訪れるなど島外の人に対象にすることから、誰にでもわかりやすい避難計画を策定する必要がある。そのため、GIS（地理情報システム）を活用して、町丁目別に、人口密度や高齢化率、乳幼児率を見える化するとともに、文字のフォント、大きさ、ルビふりに配慮した誰にでもわかりやすい資料づくりを行ってみたいとのことである。

さらに、災害時は、大島町だけではなく、東京都、警察、消防、さらに地域組織である消防団、婦人会等、多くのステークホルダーが関わることになる。そのため、災害発生前から避難情報などを発信する立場である大島町役場を基点として、各自が、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」すれば良いのか一目でわかる基準を作成している。特に高齢者等、災害時に配慮が必要な人が、一足早く避難を開始できるように計画として、逃げ遅れることがないように工夫されている。

今回の土砂災害を受けて、大島町で新たに策定された避難計画は、梅雨時や台風シーズンを経ながら改良を繰り返している。今後も島民と共に、より確実な避難に向けて、ハード・ソフト両面での取り組みが進められる予定とのことである。



■元町地区の流路工の整備工事、現在も恒久対策が進められている

現在の復旧状況

二〇一八年に伊豆大島を訪れたところ、土砂災害を防ぐ対策工事として、元町地区で流路工の整備工事が実施されていた。建設コンサルタントは、発災直後の復旧、計画の策定に加えて、このような対策工事の計画や設計も実施しているのだ。

我々建設コンサルタントは、これからの縁の下の力持ちとして、災害対策・災害復興を支援するなど社会に貢献していく決意を新たにしているところである。

異業種で組んだチームを
マネジメントすることの魅力

聞き手—業務経歴を教えてください。

横田—入社後は環境部署に配属され、環境アセスメントやオオタカ調査などに六年間携わりました。その後、建設コンサルタンツ協会インフラストラクチャー研究所へ二年間の出向期間を経て、現在のPPP開発部（民間側PFI部隊）に来て八年目となります。

聞き手—印象深い業務を教えてください。

横田—PPP開発部での北海道伊達市学校給食センターの案件です。通常の学校給食センターは、給食調理・配送、洗浄業務が主となりますが、本件では自主事業が認められており、学校給食PFIとして先進的な案件でした。そこで、

よこた だいさく
横田 太作さん株式会社 長大
インフラマネジメント事業本部
都市マネジメント事業部
地域交通企画部（大阪） 主査

（8月取材時：事業推進本部 PPP 開発部 主査、現在は上記と兼務）

レストランの運営などの独自の自主事業提案を行い、晴れて事業者として選定された、思い入れのある事業です。

聞き手—技術者の魅力について教えてください。

横田—PFI提案では、いろいろな人たちと密な時間を過ごせるということが魅力です。様々な業種から専門企業が集まり応募チームを作ります。会議には毎回三〇人くら

いが参加されます。初めは顔と名前が一致しませんが、半年経てば全員の趣味嗜好まで分かるほど親密になります。しかし、チームを組んだものの全ての案件で特定されるわけではありません。特定されたら最高ですが、非特定になったときでも「次回も長大と一緒に仕事したい！」と言ってもらえたときこそ、技術者として認めら



■北海道伊達市学校給食センター ①：給食センター外観、②～④：食育レストランの風景

れ、会社としてもステータスが上がったと思える瞬間です。

また、異業種の方と仕事をして感じることは、建設コンサルタンツのリテラシーの高さです。我々にとつて説明資料を論理的に短時間でとりまとめ、分かりやすくプレゼンすることは当たり前のことですが、異業種の皆さんからは重宝される「技術」です。発注者か

らも、建設コンサルタントがコンソーシアムメンバーにしていると安心感が違うと言われます。言い方を変えれば、建設コンサルタントは建設業界だけでなく、異業種とコラボレーションができるチャンスが沢山埋もれているのでは？と思っています。

聞き手—若手技術者、建設コンサルタントを目指す学生へのアドバイスをお願いします。

横田—専門性は会社に入ってからいくらでも磨くことができます。学生の時は人間性を磨いてください。いろいろなことに挑

戦し、経験していく。それが社会に出て役に立ちます。「おもしろい人だな、一緒に仕事したいな」と思ってもらえたら勝ちです。付き合う人を限定するとか、興味がないからやらないではなく、視野を広げてチャレンジする積極性、柔軟な姿勢が、新規ビジネスの開拓だけでなく、人生の幅を広げてくれると思います。

聞き手：広報委員 稲田 栄作、佐々木 悠

* 1) Public Private Partnership: 「民間にできることは民間に委ねる」という方針で、官民が連携して公共事業を進める手法のこと。PFIをはじめ、指定管理者制度、デザインビルド、コンセッションなどが含まれる。

* 2) Private Finance Initiative: 公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を包括的に民間に委託することにより、民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、効率的・効果的に、質の高い公共サービスを提供する手法のこと。

* 3) PFIの提案に応募するためなど、同一の目的の達成のために、複数の企業・団体から組成される共同事業体のこと。

情報コンサルタントとしての 社会貢献

聞き手—これまでの業務経歴を教えてください。
辻本—これまでの三〇年を振り返ると、三つに区分できます。最初



■業務の流れ：気象観測①②③⇒気象解析／予測④⇒提供画面の検討⑤⇒情報提供⑥

の一〇年は、気象・環境に関する観測から解析を中心とした基礎に従事しました。次の一〇年は、観測した気象情報を「どのように加工して伝えるのか」の情報提供のあり方に従事しました。そして、次の一〇年では、企画や防災系大学で特定教授を勤めるなど、経営・企画に従事し、様々な経験をつむことができました。

聞き手—思い出に残る仕事を教えてください。
辻本—雨から洪水に至る過程などを様々なフィールドで泊まり込みながら観測した現場経験は、今でも鮮明な記憶として残っており、若い頃の経験が気象状況を解説する際の基礎となっていました。そのため、今でも、豪雨災害などの気象解説は、その現象に至る過程も含めて正確にお伝えできる素地となっています。

聞き手—技術者の魅力について教えてください。
辻本—日本気象協会は、社会を支えるインフラに気象情報を提供しています。生活に身近な場面では、電車内のデジタルサイネージ、天気予報専門メディア「tenki.jp」

などの媒体を通じて、情報コンサルタントとして社会貢献できる特徴を有しており、一般的な建設コンサルタントと少し異なります。早く・広く・正確に情報提供を行う必要があるため、技術者一人の責務は大きいですが、果たす役割も大きいのです。また、近年は、異業種とのコミュニケーション交流を積極的に行っており、新たな研究開発や知見を得る環境にも恵まれるなど、技術者冥利につきます。

聞き手—目指す技術者像について教えてください。
辻本—私が学生の頃は、気象は「天気」「土木は「ダム」「橋」と異なる分野であったが、この三〇年で気象と土木は融合し、新たな領域として確立されました。時代は、AI・IoTの情報技術、自動運転・電気自動車などのモビリティ・エコ革命に代表される新たなス

テージを迎えようとしており、時代に即した研鑽の場身をとおく姿勢が技術者として常に大切です。また、社会インフラの重要性、防災面から気象の重要性を学校教育、付随する活動等を通じて伝えることも情報コンサルタントとしての使命と考えています。

聞き手—若手技術者、建設コンサルタントを目指す学生へのアドバイスをお願いします。
辻本—学識経験者や他機関技術者との共同研究、意見交換などの交流は、新たな知見や人脈を得る機会となりました。若いころの経験は、後の財産になるので、幅広い知識を持つ技術者になるための素地を形成します。私の経験も踏まえ若い技術者の方々には、積極的に外部活動や新領域に参画してほしいです。



つじもと ひろふみ
辻本 浩史さん

一般財団法人 日本気象協会
執行役員 最高情報責任者

連動企画

ハッ場ダム周辺の インフラ ツーリズム編

広報委員 漆原俊之／米村圭一郎

はじめに

近年、社会インフラそのものが地域固有の観光資源として注目され、インフラツーリズムは様々な工夫を取り入れながら進化している。特に、従来のインフラツーリズムは、土木遺産を巡る傾向が強かったが、最近では、工事現場や施設規模のスケール感を楽しむタイプのインフラツーリズムに人気がある。関東圏のインフラツーリズム（二〇一八年八月時点）は、インフラ管理者が三十四件、民間旅行会社が一六件を実施しており、そのうち二割が群馬県吾妻郡長野原町に建設中のハッ場ダムに集中している。

今回は、夏休みを利用してハッ場ダム等を巡るインフラツーリズムを一泊二日の工程で体験してきたので紹介する。また、ハッ場ダムの周辺は、日本屈指の温泉地。草津を始め、様々な観光資源に恵まれているので、インフラと周辺観光施設を組み

合わせた周遊観光のあり方などを提案してみたい。

ハッ場ダムのインフラツーリズム （二日目：日中）

ハッ場ダムに関連したインフラツーリズムは数多くあるが、今回は、関越交通（株）主催の工事現場特別ガイド付見学バスツアー（一人三千五百円）に参加した。集合は草津温泉で、参加者は我々を含めて十一名であった。

まず、ハッ場ダムについて概説すると、二〇一九年度の完成予定で、二十四時間体制で工事が進められ、その姿は日々進化している。ダム形式は、重力式コンクリートダムで、堤高は一六m、堤頂長は二九〇m、総貯水量は約一億七五〇万m³と関東を代表するダムである。

最初に訪れたハッ場ダム上流左岸の「やんば見放台」から建設現場を見下ろすと、普段目にしない大型クレーンやダンプカー等の大型重機が勢ぞろいしていた。その後、歩いて渡ったダム上流側のハッ場大橋より下を覗き込むと先ほどの大型重機が米粒のようで、改めてダムのスケール感を体験した。橋を渡った先には「なるほど！やんば資料館」があり、ダム建設に至る歴史、ダム建設の目的・機能、建設重機の紹介、ダム模型などを通じて子供にも分かりやすく紹介されている。

午後からはガイドさんによる専門的な説明を受けながらのツアーとなった。ここでは、参加記念として、



■ハッ場ダム周辺の位置図
国土地理院の地理院地図（電子国土 Web）



■「なるほど！やんば資料館」では子供が勉強中



■ハッ場大橋からダムを望む



■「やんば見放台」から工事現場を見学



■廃線を歩いてダムへ（秘境ツアーみたい）

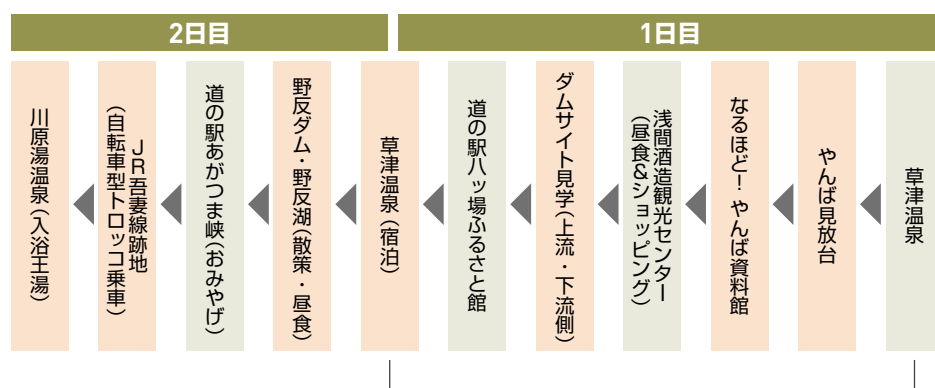


■ダム堤体を下から臨む



■規模に圧倒されるハツ場ダム

インフラツーリズムの旅行行程



ハツ場ダム見学バスツアー

ダムカード（建設中の複数バージョンあり）、八基石（コンクリート打設前の谷底から掘り出された石）等をいただいた。説明の最後に、ダム本体のコンクリート骨材となる「石」にお願いを書いて、ダムの完成とともに祈願成就を各自が願った。さきほどの「石」がダムの一部を形成すると思うと、完成後に訪れるのが楽しみである。そして、ダムサイト上流右岸側、下流左岸側の仮設構台に

移動し、ダムの上・下流をぐるっと回りこむ貴重なインフラ見学を無事に終えることができた。
なお、二〇一八年八月時点では、ダムのコンクリート打設高は八割で、年内には天端まで到達する予定とのこと。工事現場を見学する機会も残りわずかとなるので、草津温泉を訪れる際には、ぜひ立ち寄っていただきたい。なお、ハツ場ダムぶらつと見学会は、「道の駅ハツ場ふるさと館」のコンシェルジュなどで申し込みができ、空いていれば当日参加も可能とのことである。

草津温泉（一日目・夜）

草津温泉は、火山由来の強酸性の温泉が毎分三万ℓ自然湧出する日本三名泉の一つである。その源泉は五〇℃近くそのままでは入浴に適さないため、温泉効能を低下させない工夫として「湯もみ」を行い適温にする文化が今も色濃く残っている。

草津温泉は、温泉文化とともに景観まちづくりにも尽力しており、「景観まちづくり協定」を締結し、環境整備事業が進められている。特に、草津のシンボルである湯畑周辺では、温泉街の歴史ある風情を残しつつ新たな息吹を感じられる取り組みが継続して行われている。

草津には老舗旅館やホテルだけではなく、西洋風のペンションが三〇軒近くある。余談であるが、ペンション発祥の地は草津温泉であるという説もある。これらのペンション群は温泉街の中心からやや離れた、落ち



■伝統と現在を表現した「熱乃湯」



■湯畑周辺の景観整備



■ライトアップされた湯畑



■草津国際スキー場でのアクティビティ



■ペンション発祥の地といわれる綿貫ペンション

着いた静かな場所にある。湯畑周辺の老舗旅館と比べて一泊二食付で一人一万円前後と比較的安く、個性豊かな風呂（もちろん温泉）とともに、地元の食材が豊富な食事など魅力満点である。



■野反峠休憩舎から野反湖を望む

ハツ場ダムの北に位置する野反ダムは、標高一五一七mに岩石を積み上げて建設された発電用ロックフィルダムである。関東（群馬県）に位置するが、ダムから流れる中津川は信濃川水系に属し日本海に注いでいる。なお、隣接する長野県の南相模ダム（一五三二m）が二〇〇五年に完成するまでは日本一標高の高い地点に建設されたダムであった（有名な黒部ダムは一四七〇m）。野反湖の周囲はニッコウキスゲ他三百種を超える高山植物が自生しており、四

野反ダム（二日目：朝）

周辺の草津国際スキー場は、春からは秋はプレイゾーンとして様々なアクティビティが体験できるなど、草津は何回行っても新たな発見がある。インフラツーリズムの宿泊拠点として、自分のイチ押し場所を探してみよう。



■ロックフィルダムの特徴が分かるダムサイトの下流側

季折々のダムの風景が顔を覗かせる。ダム湖そばにある野反峠休憩舎の建物は古めかしいが、地元六合産の食材を用いたメニューが充実している他、地元産品が入手できるのが魅力である。

その他、キャンプ場、コテージでの宿泊、つり、登山等のアウトドア体験が気軽にできるなど、SNSで近年「天空の湖」として紹介されたこともあり人気上昇中のスポットである。取材当時（八月上旬）の都内は、三五度を超える酷暑であったが、ここはエアコンがかかっているかの様な快適な避暑地であり、印象深い一日となった。

今回の野反ダムでのアミューズメント体験を通じて、ハツ場ダム完成後のダム湖のもつ可能性がふと想像できた。また、ハツ場ダムとは、ダム形式が異なるので、構造や規模を比べながら両方巡ると面白いだろう。

JR 吾妻線跡地（二日目：昼）

ハツ場ダムのやや手前で、国道沿いでボードにて何やらPRしている人たちに遭遇し、気になるので立ち寄ってみた。ここでは、東吾妻町主催の線路跡地を活用した自転車型トロッコ（延長約八〇〇m）の体験乗車を実施しており、時間もあったので、身体を動かすことにした。JR吾妻線はダム建設により高台ルートへの線路の切替が行われ、利用されなくなった線路跡地を地域活性の目玉として二〇二〇年春からの本格運用に向けて、試験運行を行っている。

田園風景や吾妻渓谷などの風光明媚な場所を通る路線で、踏切やトンネルをはじめとする鉄道施設も多く残るため、実現すれば大人気スポットになるだろう。



■二人乗り自転車型トロッコ

川原湯温泉（二日目・夕）

川原湯温泉は、約八百年前に源頼朝が発見したという伝説が残る「小さな温泉地」で、三つの共同浴場があった。温泉街は、ハツ場ダムの完成によってダム湖に沈むため、現地再建方式により近くの高台へ移転し、現在新たな装いをみせている。

移転先では、温泉旅館、土産物屋、老人介護施設、民家が集約整備されている。共同浴場の「王湯」は、ダム湖を望む場所に再建され、温泉街の目前に出現するダム湖の風景が想像でき、将来が楽しみである。今はダムツアー以外には賑わいに乏しいが、湖畔に親水公園やキャンプ場等を整備すると大人気のスポットに変わると思われる。



■移転前の共同浴場「王湯」



■高台移転後の新「王湯」

ハツ場ダム周辺のインフラツーリズムの可能性

インフラツーリズムを旅行に組み込むことで、いつもと異なる楽しみを得ることができた。ハツ場ダムは反対運動や政治的判断などから土木のマイナスイメージが強調されてきたが、二〇二〇年のダム完成後に出現する巨大なダム湖は、インフラツーリズムを通してマイナスイメージからプラスに転じる大きな可能性を秘めている。土木インフラと観光地を結びつけるインフラツーリズムは、ダム周辺の自治体にとって地域活性化の中核になる存在となり、我々建設コンサルタンタにとっても腕の見せ所ではないかと思うところである。

インフラツーリズムの事例

インフラツーリズムの分類	全国の施設	ハツ場ダム周辺施設
施設のスケールや機能美を体感する	黒部ダム（富山）、宮ヶ瀬ダム（神奈川）、首都圏外郭放水路（埼玉） レインボーブリッジ（東京）、本州四国連絡橋（本州・四国）	ハツ場ダム（完成後）、野反ダム ハツ場大橋、不動大橋、丸岩大橋
工事中の現場や普段入れないバックヤードを見学する	東京湾トンネル（東京）、東京湾アクアライン（神奈川・千葉） 東京外かく環状道路（東京・埼玉・千葉）	ハツ場ダム（工事中）
歴史的に価値のある施設を見学する	永代橋・勝鬃橋（東京）、通潤橋（熊本）、錦帯橋（山口） 立山カルデラ砂防施設（富山）、東京湾第二海堡（千葉）	六合赤岩地区 旧太子駅跡地復元
既存の施設を活用する	黒部峡谷トロッコ電車（富山） 余部鉄橋「空の駅」展望施設（兵庫）	吾妻線自転車型トロッコ ハツ場ダムの形成する湖
土木インフラの造り出した景観を楽しむ	美瑛川ブロック堰堤の青い池（北海道） 湖底に沈むタウシュベツ川橋梁（北海道）	鉄鉱床跡のチャップミゴケ公園 奥四万湖の四万ブルー



〔参考サイト〕

○インフラツーリズムPORTAL SITE（国土交通省総合政策局） <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/index.html>

○日本の土木を見に行こう土木ツアー NAVI（一般社団法人建設コンサルタンツ協会） <http://jcca.yin.or.jp/doboku-tour/>

関東支部50年のあゆみ

建設コンサルタンツ協会関東支部は、昭和43年に関東地区協議会として43社で発足しましたが、現在では161社の会員を擁する支部に成長、平成30年11月には、創立50周年を迎えました。今後も建設コンサルタンツが抱える課題の解決に向けて活動してまいります。

		1990年代		1980年代		1970年代		1960年代		年	支部長	会 員 数	関東支部の動き	建設コンサルタンツ協会の動き	社会の動き
2005	平成17年	廣谷彰彦	186	1月	「関東クロールビジョン2005」発刊	4月	CPD制度の創設、CPD事務局の設置	4月	「個人情報保護法」全面施行	昭和36年					
2004	平成16年		194	5月	「中期行動計画策定委員会」設置	1月	本部・支部意見交換会の開始	10月	新潟県中越地震発生	昭和38年					
2003	平成15年	木下 薫	198	4月	対外活動部会の下に「実行委員会」設置	5月	協会創立40周年記念祝賀会開催	3月	米英軍、イラクに軍事攻撃開始	昭和40年					
2002	平成14年		203	7月	CALS資格試験の支援開始	7月	第1回CALS／ECインストラクター試験	5月	日韓共催サッカーワールドカップ	昭和42年					
2001	平成13年		210	5月	情報委員会新設	4月	インフラストラクチャー研究所設置	9月	米国同時多発テロ事件勃発	昭和44年	梶谷 薫				
2000	平成12年	西田茂一	208	6月	独占禁止法特別委員会の下に「実行委員会」設置	8月	本部事務局「麹町」に移転	10月	「建設CATS／EC推進本部」の設置	昭和46年					
1999	平成11年		211	5月	環境専門委員会、電子情報専門委員会設置	3月	建設コンサルタンツ賠償責任保険制度発足	6月	土木学会「土木技術者の倫理規定」策定	昭和48年					
1998	平成10年	清野 茂次	213	10月	創立30周年記念式典・祝賀会開催	4月	建設コンサルタンツ中期行動計画策定	12月	東京湾アクアライン開通	昭和50年					
1997	平成9年		211	9月	テニス大会（第1回）開催	4月	A-T-21建設コンサルタンツ中期行動計画策定	10月	「建設CATS／EC推進本部」の設置	昭和52年					
1996	平成8年		205	10月	長野県オリンピック道路見学会	1月	兵庫県南部地震災害に係る対策本部の設置	3月	地下鉄サリン事件発生	昭和54年					
1995	平成7年		205	10月	レビュー制度報告書説明会開催	10月	創立30周年記念式典・国際シンポジウム開催	4月	建設省、「道の駅」制度を創設	昭和56年					
1994	平成6年		188	10月	本部30・支部25周年記念講演会	6月	近畿支部30周年記念式典開催	1月	湾岸戦争	昭和58年					
1993	平成5年		179	10月	関東地整「新技術フェア」に出展	9月	東北支部 10月 中部支部20周年記念式典開催	5月	建設省「建設コンサルタンツ中長期ビジョン（A-T-1構想）策定	昭和60年					
1992	平成4年		170	10月		5月（社）建設コンサルタンツ倫理綱領策定	10月	東西ドイツ統一	5月	建設省「建設コンサルタンツ中長期ビジョン研究会」設置	昭和62年				
1991	平成3年	梅田昌郎	161	4月	新入社員研修会（第10回）	3月	「税制改革について」自民党との懇談会	4月	ソ連、チェルノブイリ原発事故	昭和64年					
1990	平成2年		145	10月	創立20周年記念式典・祝賀会開催	4月	「建設コンサルタンツの現状と要望」キャンペーン開始	11月	日本建設情報総合センター（JACIC）発足	昭和66年					
1989	平成元年		136	10月		4月	本部事務局の移転	4月	ソ連、チェルノブイリ原発事故	昭和68年					
1988	昭和63年		130	10月		6月	本部事務局の移転	4月	ソ連、チェルノブイリ原発事故	昭和70年					
1987	昭和62年		124			3月	「税制改革について」自民党との懇談会	4月	500円硬貨発行	昭和72年					
1986	昭和61年		122			4月	「建設コンサルタンツの現状と要望」キャンペーン開始	3月	グリコ・森永事件	昭和74年					
1985	昭和60年		112			5月	「建設コンサルタンツ・ビジョン」発表と創立20周年記念式典	10月	三宅島大噴火	昭和76年					
1984	昭和59年		104			6月	「建設コンサルタンツ・ビジョン作り有志懇談会」設置	9月	イラン・イラク戦争	昭和78年					
1983	昭和58年	伊藤直行	95	4月	関東支部に名称変更	4月	「建設コンサルタンツ・ビジョン作り特別委員会」開催	4月	米、世界初のスペースシャトル打上げ成功	昭和80年					
1982	昭和57年		102	4月	支部創立15周年記念式典開催	2月	北陸部会設立	4月	米、世界初のスペースシャトル打上げ成功	昭和82年					
1981	昭和56年	斎藤 申吾	95	2月	新入社員研修会開始	10月	中国・四国支部10周年記念式典開催	9月	イラン・イラク戦争	昭和84年					
1980	昭和55年		84	2月	関東北陸支部に名称変更	5月	「建設コンサルタンツ・ビジョン作り有志懇談会」設置	3月	米・スリーマイル島原発事故	昭和86年					
1979	昭和54年	谷口敏雄	75	4月	支部創立10周年記念式典・祝賀会開催	4月	関東甲信越・中部・近畿の各支部を設立	11月	「第3次全国総合開発計画」閣議決定	昭和88年					
1978	昭和53年	石川 豊	69	10月	支部創立10周年記念式典・祝賀会開催	4月	関東甲信越・中部・近畿の各支部を設立	2月	ロッキード事件	昭和90年					
1977	昭和52年	黒田 静夫	64	4月	支部創立10周年記念式典・祝賀会開催	4月	関東甲信越・中部・近畿の各支部を設立	2月	ロッキード事件	昭和92年					
1976	昭和51年	田原保二	63	7月	支部事務局開設（信濃町多士ビル内）	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和94年					
1975	昭和50年	鈴木 信孝	59	7月	支部事務局開設（信濃町多士ビル内）	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和96年					
1974	昭和49年	有江義晴	58	7月	支部事務局開設（信濃町多士ビル内）	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和98年					
1973	昭和48年	田辺 弘	58	7月	支部事務局開設（信濃町多士ビル内）	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和100年					
1972	昭和47年	藤村博昭	58	7月	支部事務局開設（信濃町多士ビル内）	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和102年					
1971	昭和46年	伊藤 清一	48	7月	支部事務局開設（信濃町多士ビル内）	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和104年					
1970	昭和45年		45	4月	協議会を発展的解消し、名称を「関東支部」と変更	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和106年					
1969	昭和44年	梶谷 薫	44	4月	協議会を発展的解消し、名称を「関東支部」と変更	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和108年					
1968	昭和43年		43	11月13日	関東地区協議会結成	4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和110年					
1963	昭和38年					4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和112年					
1961	昭和36年					4月	協会事務局移転（全国町村会館へ）	4月	ベトナム戦争終結	昭和114年					

支部紹介 関東活動

は八千代エンジニアリング（株）でした。
※今年はサンケイスポーツセンター（三郷市 江戸川河川敷）です。奮ってご参加下さい。

◆テニス大会

昨年で二二回目を迎えました。「昭和の森テニスセンター（昭島市）」は都心から遠距離にもかかわらず、参加四一チーム（一昨年三三チーム）、うちミックスダブルスは一三チーム（一昨年四チーム）と大幅に参加者が増しました。過去一〇年間はほぼ日本工営（株）が優勝を独占していましたが、昨年の男子ダブルスは（株）千代田コンサルタントが、ミックスダブルスは（株）エイト日本技術開発が優勝しました。

◆ボウリング大会

昨年で三一回目を迎えました。会場はいつもの「シチズンプラザ ボウリング場（高田馬場）」です。八九名（一昨年九七名）が参加し、優勝は団体の部ではパシフィックコンサルタンツ（株）、男子個人の部では（株）日水コン、女子個人の部では（株）アサノ大成基礎エンジニアリングでした。

今後とも会員皆様の積極的な参加をお待ちしております。



関東支部では会員相互の親睦を図るため、毎年スポーツイベントを開催しておりますが、二〇二〇年東京オリンピック開催の関係で、会場が変更になります。特に野球大会が行われる「神宮外苑軟式野球場」は昨年から最後で今年からは別の会場となります。また、テニスも同様な理由でこれまでの「有明テニスの森公園」が平成二九年から平成三二年七月まで利用できないために、昨年からは「昭和の森テニスセンター（昭島市）」を会場として開催しました。

◆野球大会

昨年で五一回目を迎えました。大会二日目（五月一三日）午後、強い雨に見舞われ、特例規定（四回で終了）による試合を行いました。その試合に出場された四チームの皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。

三日目からは晴天に恵まれ、予定通り最終日（六月三日）を迎え、全日程を終了しました。昨年は四〇社（一昨年四四社）が参加し、JR東日本コンサルタンツ（株）が優勝しました。四年連続の快挙です。準優勝はアジア航測（株）、三位は（株）オリエンタルコンサルタンツ、四位

事務局だより

関東支部は平成三〇年一月一三日で創立五〇周年を迎えました。昭和四三年、本部理事会の決定に基づき「建設コンサルタンツ協会関東地区協議会」が支部会員四三社をもつて発足設立されました。その後、会員数は増え、昭和四五年四月に「関東支部」と名称変更し、さらに昭和五二年四月には北陸地区、長野・山梨県を含めて支部の名称を「関東甲信越支部」と改称しました。昭和五六年には北陸地方建設局（現北陸地方整備局）からの要望もあつて「関東北陸支部」と改称し、北陸部会と関東部会に分けて担当することになりました。その後、北陸部会は昭和五八年三月「北陸支部」として分離独立し、昭和五八年四月に「関東支部」と改称し、現在に至っています（関東支部二十年の軌跡）より抜粋。

『名店紹介』〈ふるさと亭 かつ進〉

協会の前にある「出世不動通り」を西へ向かうと歩いて二〇三分のところにあります。

昼時にはサラリーマンがあふれる「神田駅西口商店街」にはいろいろな店がありますが、このとんかつ屋はおすすめてです。神田界限には有名な「とんかつ屋」はありますが総合的に見てここが一番ではないでしょうか。受付の女性も美人で元気で気立てが良く、マスターも人柄がにじみ出ています。ランチメニューも豊富で、いつも迷います。写真はおすすめめの「とんかつ定食」です。キャベツ、ごはんはお代わり自由です。ぜひ一度、行ってみてください。ただし、長蛇の列です。で昼前（？） かつ進がおすすめです。

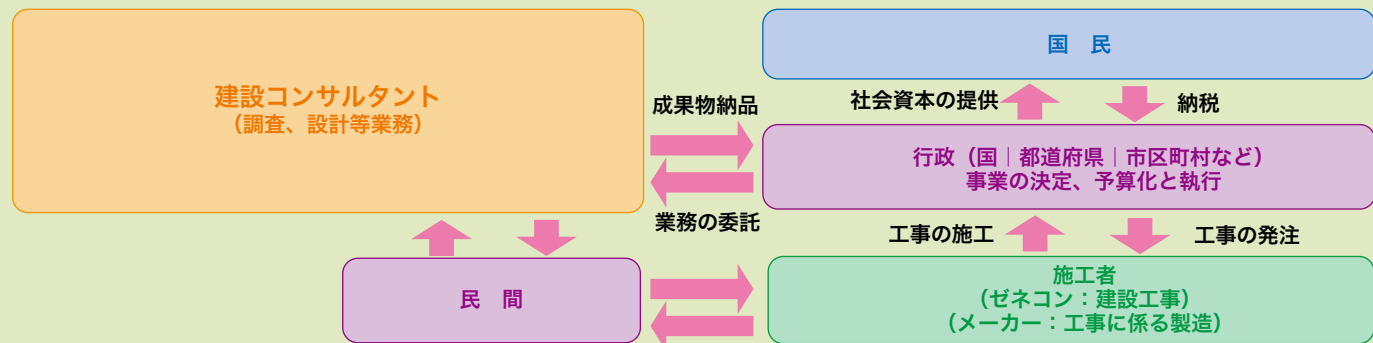
（文責 小松 豊）



建設コンサルタントとは

建設コンサルタントのビジネスモデル

社会資本は、国や地方公共団体などが主体となって整備され、維持管理されます。建設コンサルタントは、社会資本整備の中で「企画立案」「調査計画」「設計」「維持管理」などを担い、国や地方公共団体のパートナーとして、事業の実現を通じて国民生活の向上に寄与しています。



建設コンサルタントの役割

社会資本整備は、戦後の経済成長を支え、成熟した社会を形成の土台を築いてきました。一方、時代の変化に合わせて、「新しく物を作る」ことに加え、「今ある物を効率よく長く活用する」ことも重要になってきており、建設コンサルタントもこれまでに高い専門性と技術力を発揮することが期待されています。また、これからの公共事業は、実際に利用される住民の皆様が使いやすいものを、より安く作り上げることが求められており、建設コンサルタントは、国・地方自治体と住民の間に立ち、中立的な立場で、合意形成を図るコーディネーターの役割も期待されています。

編集後記

- ◇ 哀川翔さんにインタビューを快諾いただいたり、子供を連れて土木ツアーNAVIの取材に行かれたり、ポケットマネーでイルカウォッチングに参加しったりと委員のみなさんの熱意に圧倒されっぱなしの月号でした。(浅野)
- ◇ 今回の記事執筆に関して取材と称して西新宿一帯を歩き回ったが、歴史探訪は色々発見できて面白い。街を知り人を知る。成る程なーと感心してしまいました。(千田)
- ◇ 今回も、素敵な技術人にお会いできました！皆さんに楽しく読んでいただき、技術者の良さを感じていただければと思います。今回の関東の島しょ部特集で、関東を一巡しました。さて、次回の企画に乞うご期待です。(稲田)
- ◇ インフラの観光体験を通じて、余暇の楽しみ方に広がりがもめました。また、技術者の魅力や技術者像を取材させていただき、多様な価値観・経験を紹介できることに喜びを感じるとともに、貴重な出会いに感謝しています。(米村)
- ◇ 雨(台風)女と呼ばれる私に、船とヘリコプター移動を含む取材日の決定任務が。リスケの恐怖を抱えながら、ほんの少し日頃の行いを意識したような。一か八かでしたが、幸運にも全日晴れと曇り。ああー、よかった…(永堀)
- ◇ 今回の取材を通して、東京島嶼部が好きになりました。東京都にもまだこんなに自然が残されているのだと感激しました。読者の皆さんにも、島の魅力が伝わればいいなと思います。(上田)
- ◇ 地熱発電所は1999年に運転開始した離島で全国初の施設であり、20年近く島のベース電源を支えてきた立派な施設でした。2022年に新しい地熱発電所ができれば、その性能と施設を見に、また八丈島を訪れたと思います。(日比)
- ◇ 今号では取材の為伊豆大島を訪れました。土砂災害の爪痕がはっきりと分かり、改めて自然災害の恐ろしさ、対策の重要性を痛感しました。地のトビウオ刺身と御神火焼酎も格別！皆様足を運んでみてはいかがでしょうか。(畑)
- ◇ 東京から南に約千キロの小笠原諸島。亜熱帯気候で元旦に海開きが行われますが、れっきとした東京都です。今回、訪島による取材は叶いませんでしたが、観光局の根岸事務局長の熱いお話を伺って、行ったような親近感が湧きました。(宮崎)
- ◇ 今号から初めて取材・執筆・編集を経験しました。普段海の仕事をしているため、企画から特に思い入れがありました。島への熱いメッセージを語って頂いた哀川翔様、ご協力頂いた奥様には、心より感謝申し上げます。兄貴の子育て論も読者必見です！(本田)
- ◇ 初取材でトビックス2を担当し、御蔵島のイルカたちに出会ってきました。海と山、それぞれの魅力をぜひ感じていただけたら嬉しいです。まだまだ知らない“関東にある土木の魅力”、今後も等身大でお伝えしていきます！(鈴木)
- ◇ 今号より委員に加わりました。担当した取材では興味深いお話を聞くことができました。来年度の活動も楽しみです。建設コンサルタントの魅力をより多くの方々に発信していけるよう頑張りたいと思います。(佐々木)
- ◇ 今年度から新たに委員会に加わりました。主力部隊が海へ向かう中、東京を離れて群馬の山中に向かいましたが、大好きな草津周辺を娘と共に取材することができて、大満足の一年となりました。ハッ場ダム完成後の賑わいが楽しみです。(漆原)

【グローバル関東 制作者】広報委員会

委員長	浅野 泰弘	セントラルコンサルタント株式会社
副委員長	千田 純也	日本データサービス株式会社
委員	稲田 栄作	東京コンサルタンツ株式会社
委員	米村 圭一郎	株式会社片平新日本技研
委員	永堀 日和子	大日本コンサルタント株式会社
委員	上田 透	日本工営株式会社
委員	日比 理智	株式会社NJS

委員	畑 浩太	八千代エンジニアリング株式会社
委員	宮崎 晶	株式会社建設環境研究所
委員	本田 浩隆	株式会社日本港湾コンサルタント
委員	鈴木 美咲	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
委員	佐々木 悠	株式会社長大
委員	漆原 俊之	株式会社協和コンサルタンツ

グローバル関東 Vol.12 February 2019

発行日 平成31年2月5日発行

編集 広報委員会

発行 JCCA 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 関東支部

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-10 松楠ビル4階

Phone…03-5297-5951 Fax…03-5297-5952 <http://www.jcca-kt.jp>

レイアウト制作印刷

株式会社 大 應



JCCA
関東支部